

第4期上尾市教育振興基本計画策定に関する

アンケート調査結果報告書

【市民】

令和7年10月

上尾市教育委員会

目次

1.概要	1
2.市民アンケート調査結果	2
(1) 選択肢ごと集計	2
(2) その他意見一覧	7

Ⅰ.概要

第4期上尾市教育振興基本計画策定にあたり、下表の通り、市民向けと上尾市内小中学生向けのアンケートを実施しました。

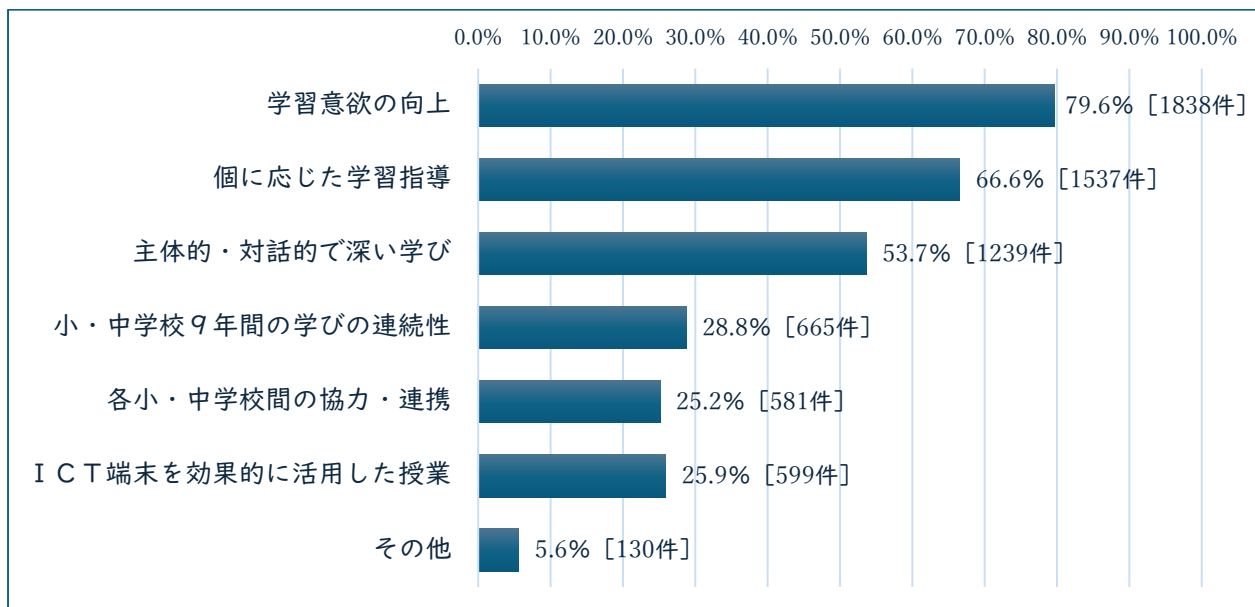
1.目 的	より良い教育環境を整備するための意見を伺い、「第4期上尾市教育振興基本計画」の策定の参考資料とするため
2.対 象 者	市 民
3.調査方法	電子申請・届出サービスを利用した Web アンケート
4.調査期間	令和 7 年 5 月 23 日～6 月 6 日
5.回答者数	2,309 人
6.設問内容	全10問(多数回答・自由記述あり)
7.周知方法	さくら連絡網 上尾市 LINE デジタルサイネージ ホームページ掲載 チラシ配布

2. 市民アンケート調査結果

(1) 選択肢ごと集計

割合は(回答数/回答者数)で表示しています。

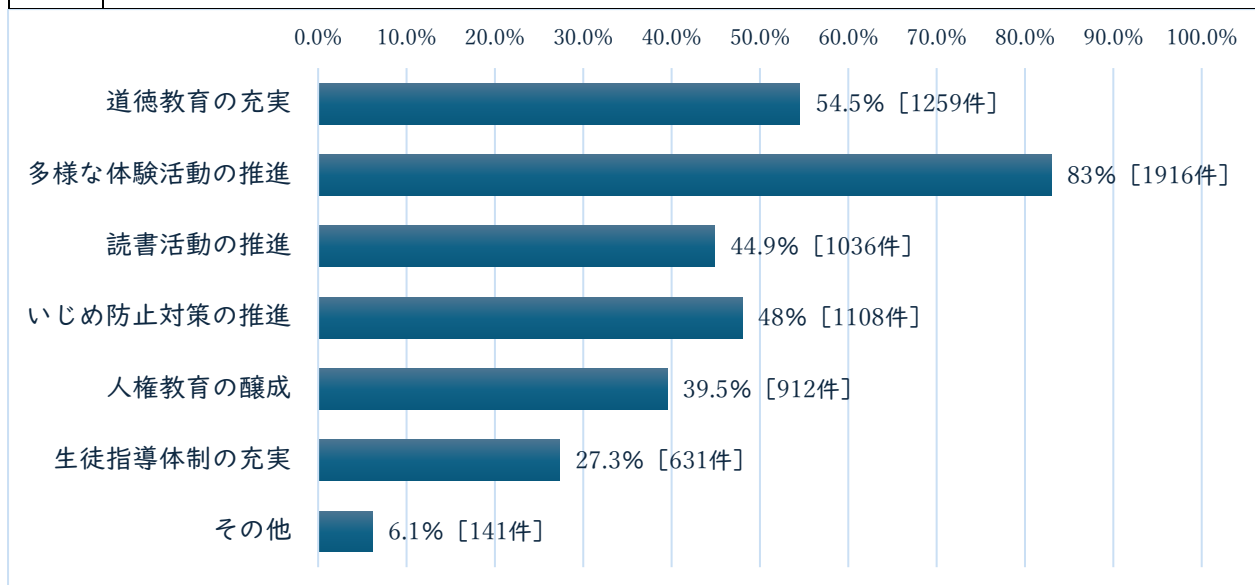
問1	学力を育成するためには何が大切ですか。あてはまるものを全て選んでください。
----	---------------------------------------



【その他意見の内容】

- ① 学習内容・方法に関する意見 ② 学習環境・体制に関する意見、
③ 教員・指導者に関する意見 ④ 保護者・家庭に関する意見 など

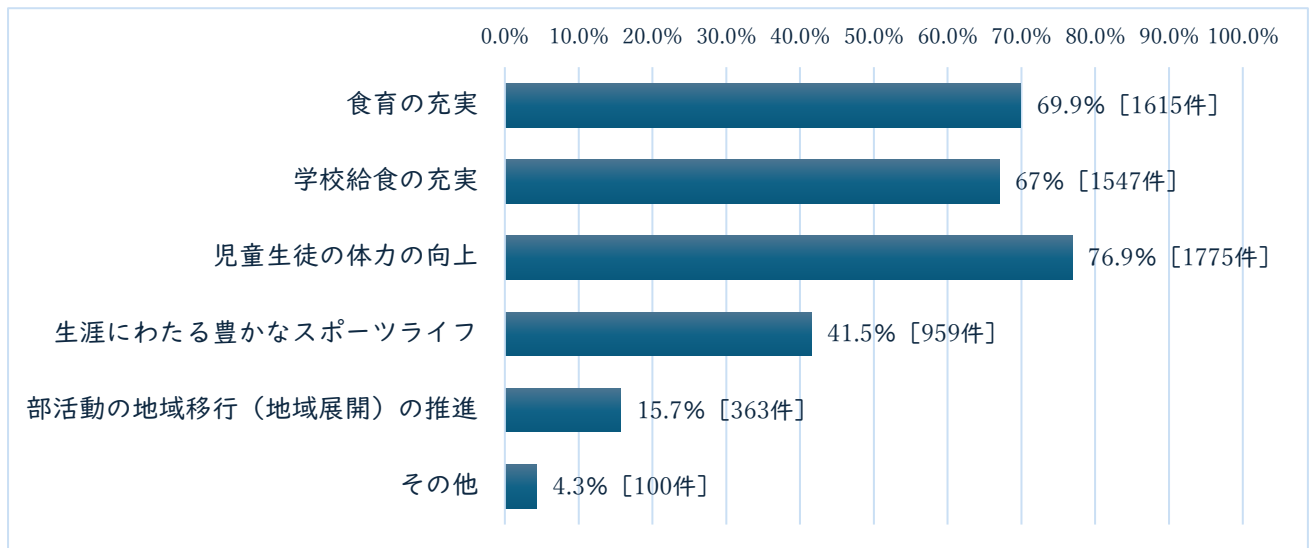
問2	豊かな心を育成するためには何が大切ですか。あてはまるものを全て選んでください。
----	---



【その他意見の内容】

- ① 学習内容・方法に関する意見 ② 自己肯定感・人間関係に関する意見 ③ 教員・指導方法に関する意見
④ 学校環境・生活に関する意見 ⑤ 家庭・保護者の役割に関する意見 など

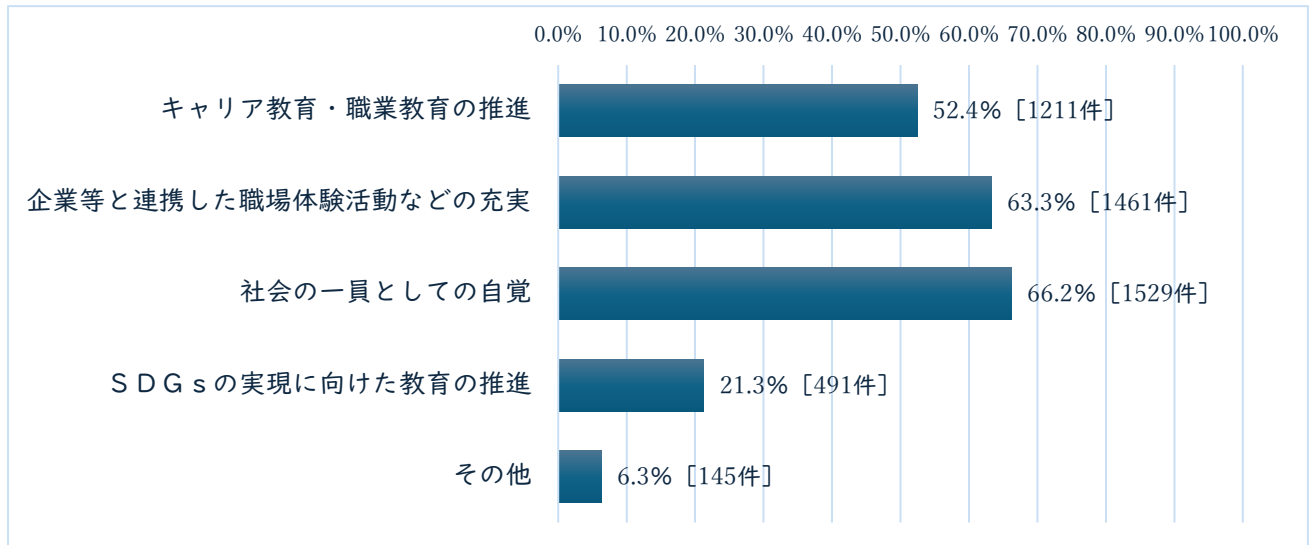
問3 健やかな体を育成するには何が大切ですか。あてはまるものを全て選んでください。



【その他意見の内容】

- ① 部活動・運動に関する意見 ② 食育・給食に関する意見
 ③ 保健・生活習慣に関する意見 ④ 地域連携・環境整備に関する意見
 ⑤ 子どもの自由時間・精神的なゆとりに関する意見 など

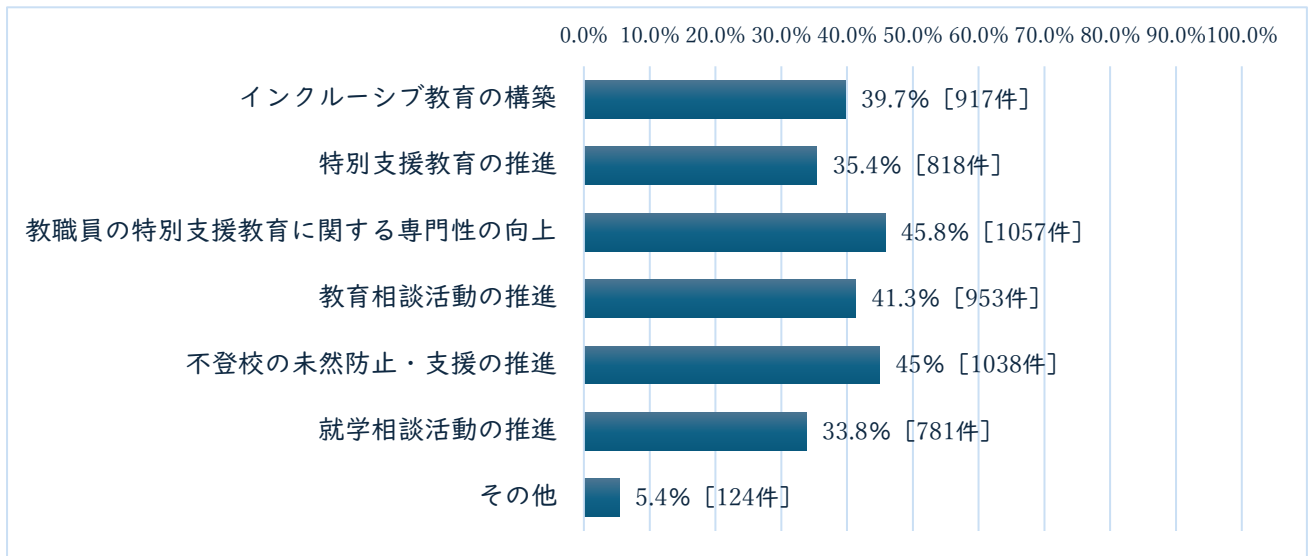
問4 自立する力を育成するためには何が大切ですか。あてはまるものを全て選んでください。



【その他意見の内容】

- ① 教育体制・学習方法 ② 自主性・主体性の育成
 ③ 社会性・協調性の育成 ④ 経済・生活に関する知識
 ⑤ 自己肯定感・心の安定 ⑥ 環境・関係性の重要性
 ⑦ 家族・家庭の役割 ⑧ 経験・体験の機会 など

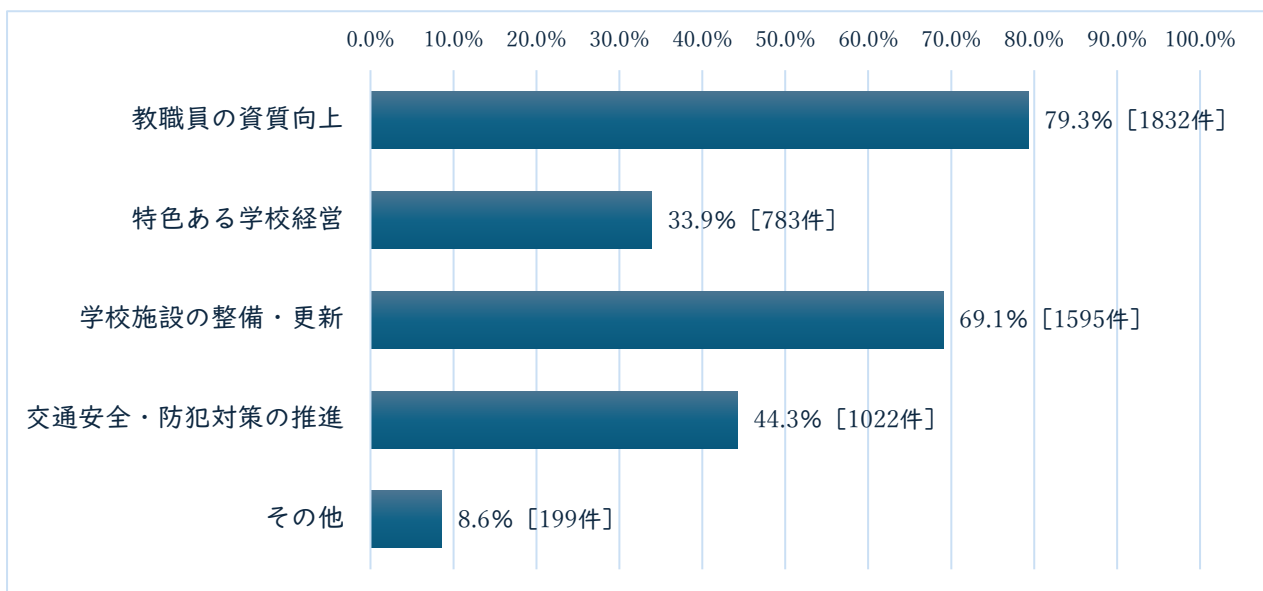
問5	多様なニーズに対応した教育を推進させるためには何が大切ですか。あてはまるものを全て選んでください。
----	---



【その他意見の内容】

- ① 教員・人員体制に関する意見 ② 多様なニーズへの対応に関する意見
③ 家庭・地域・学校連携に関する意見 ④ 教育内容・システムに関する意見 など

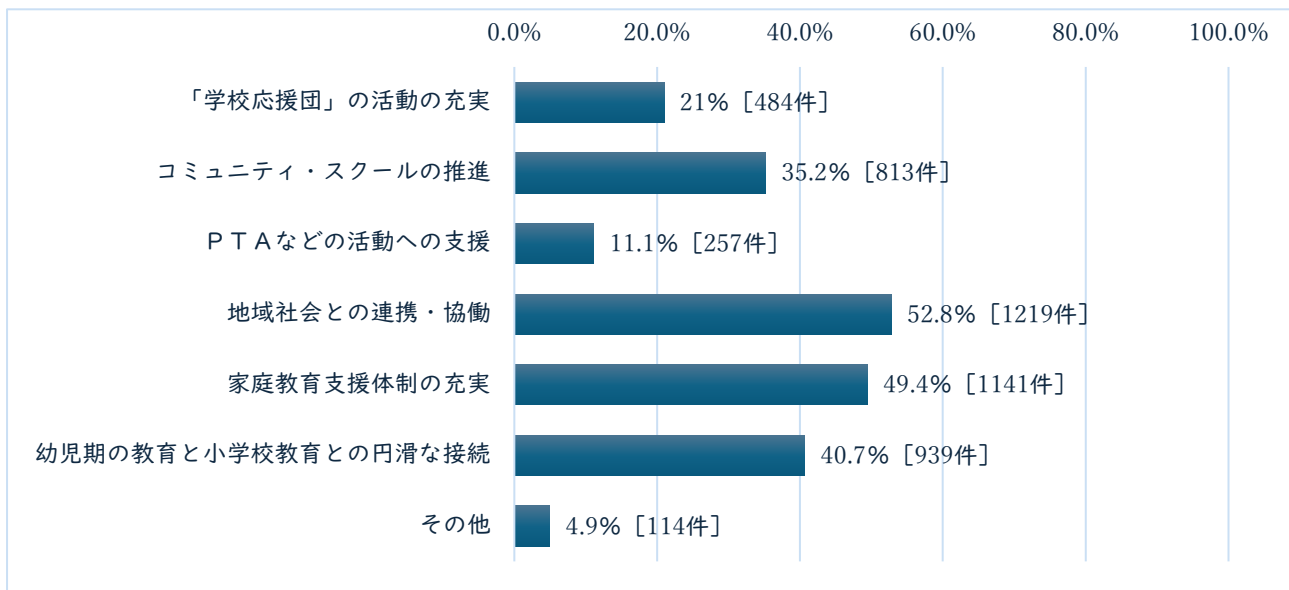
問6	質の高い学校教育のための環境を充実させるためには何が大切ですか。あてはまるものを全て選んでください。
----	--



【その他意見の内容】

- ① 教職員の確保と待遇改善 ② 教育内容・指導方法の改善 ③ 学校環境・設備・安全対策
④ 保護者・地域との連携・協力 ⑤ 広範な改善要望 など

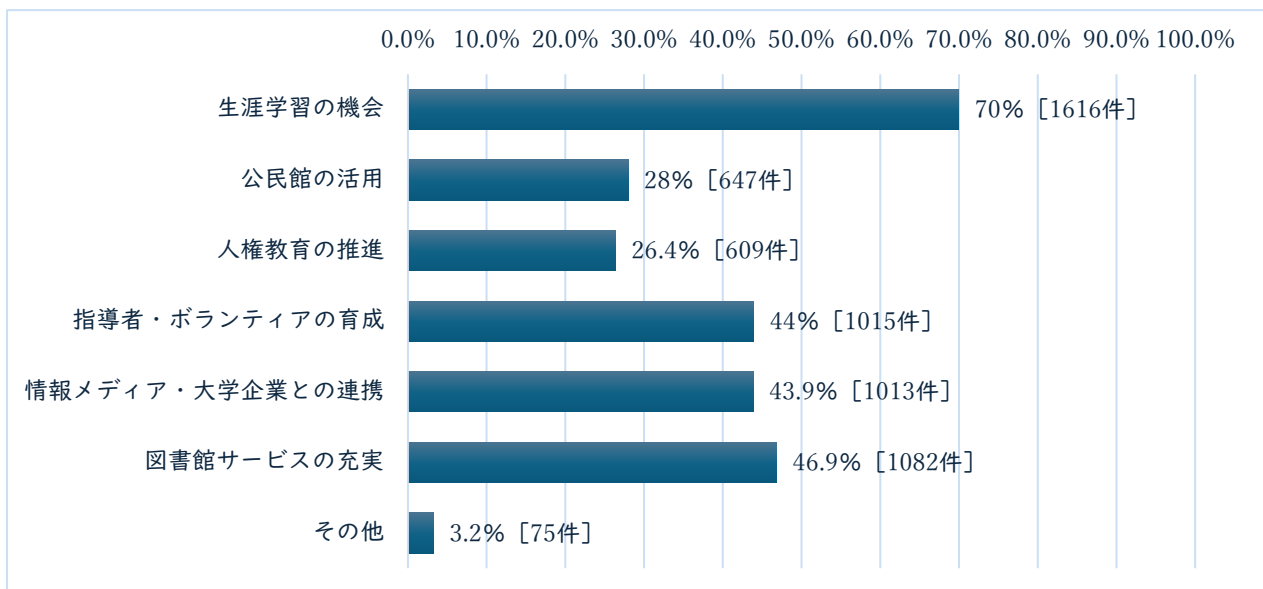
問7	家庭・地域の教育力を向上させるためには、何が大切ですか。あてはまるものを全て選んでください。
----	--



【その他意見の内容】

- ① 家庭・地域との連携、② 子育て支援（家庭への支援）
 ③ 学習環境・機会の充実④ PTA・学校応援団のあり方 など

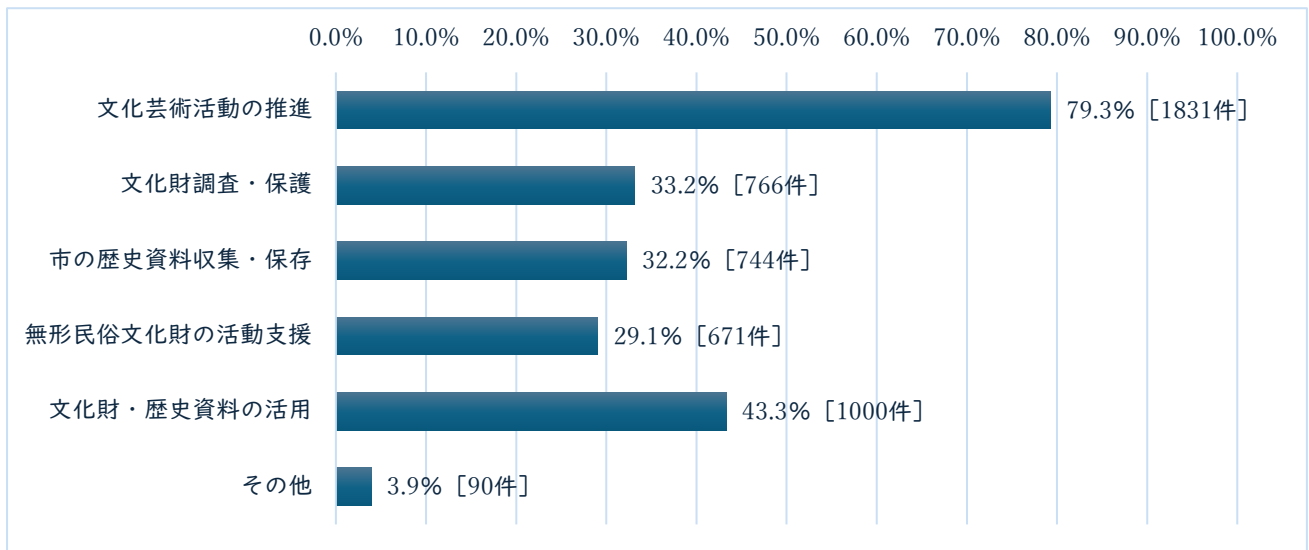
問8	生涯にわたる学びを推進するためには何が大切ですか。あてはまるものを全て選んでください。
----	---



【その他意見の内容】

- ① 生涯学習施設の拡充・改善 ② 学習内容・機会の充実
 ③ 経済的側面・環境整備 ④ 人間関係・意識・コミュニケーション など

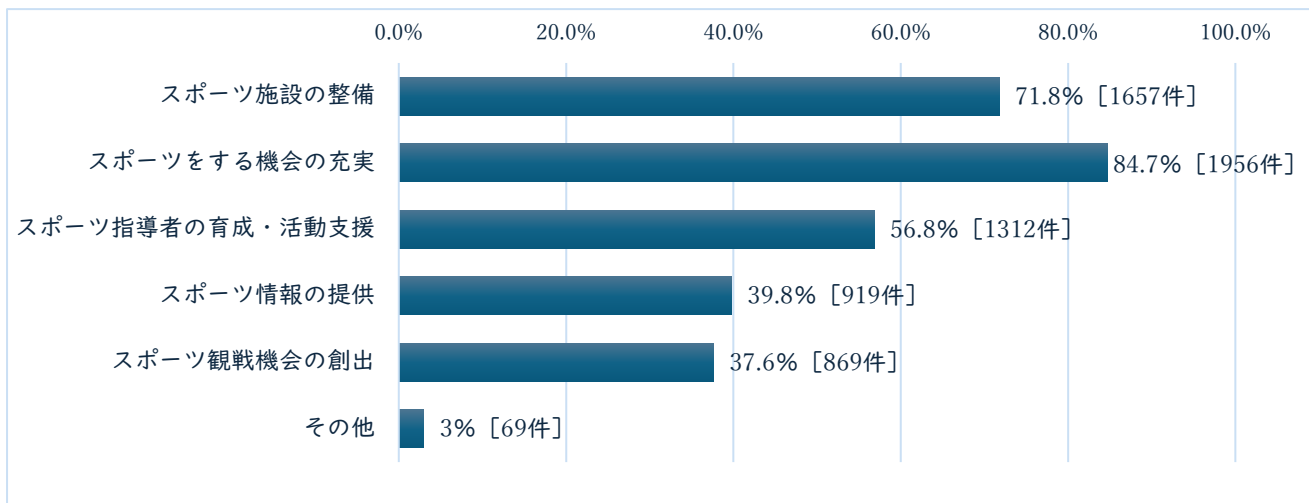
問9 文化芸術の振興を推進させるためには何が大切ですか。あてはまるものを全て選んでください。



【その他意見の内容】

- ① 施設・場所の整備・充実 ② 体験・鑑賞機会の創出と充実
③ 教育・人材育成 ④ 認識・意識の向上 ⑤ 経済的・時間的ゆとり など

問10 健康で活力に満ちたスポーツ活動を推進させるためには何が大切ですか。あてはまるものを全て選んでください。



【その他意見の内容】

- ① スポーツ施設の拡充に関する意見 ② スポーツ活動・教育のあり方に関する意見 など

(2) その他意見一覧

問1	学力を育成するためには何が大切ですか。
----	---------------------

① 学習内容・方法に関する意見

- ・暗記してテストをするより、実践的なことを考え問題解決をしながら進める学び
- ・貧富の差に関係なく受けられる場の提供
- ・法律と政治と経済と投資の授業を拡充してください。
- ・タブレットなどより手書きの学習を増やす。スウェーデンなどではタブレット端末を使って学力低下して手書きに戻したので。
- ・ICT 端末での学習は欧州で学力の低下が確認されているので、必要以上に使用しない方が良いと思う。
- ・英語教育開始時期の延期。日本語での思考をより深くするため、日本語の読み書きにより時間を割いて欲しいです。漢字の読み書きがおぼつかないです。音読み訓読みがあることを認識出来ていませんでした。
- ・歴史の教科書で日本の歴史を正しく伝えてほしい。太平洋戦争ではありません大東亜戦争です。
- ・身体的だけでなく心の発育における理解と教育
- ・高学年や中学生の職業体験、見学の充実
- ・家庭での復習、繰り返し学習し定着させる
- ・他人に教える練習をさせる
- ・学ぶ内容が現実的に何に使われているか、社会のような暗記だけの内容は、現実的な立場、どういった立場と意図で書かれているか、必ず「何に偏っているか」を説明することに時間をしっかり割くこと。それがなくて不信感があった。子供は様々な情報を得ています。
- ・無駄を考えようとする力。勉強だけではなく、他の体験から、次からはこうしようと、自主性につながる体験。
- ・モンテッソーリ教育に基づいた教育環境の実現、遊びと学びが混ざっているような学習時間の確保
- ・特別支援学級(中学)に入学したら、小学校よりも低レベルの授業。通常級ではついていけないから支援級にいるのに、目標が特別支援学校レベルになっているのはおかしいと思う。
- ・夏休みの課題にある、自由研究の課題取り組みを普段の授業に取り入れる
- ・探究的な学び
- ・「学力」の明確な定義が必要
- ・デジタル機器に頼らない学習の方が、定着率がいいと感じる
- ・探究心を掻き立てる授業
- ・ICT 端末に頼らないアナログな方法での学習
- ・学習内容の見直し、授業内で反復学習できる、余裕時間

- ・学ぶ楽しさに気づかせる機会を沢山(個によって様々なため)学びの中に入れる。雑学でもきっかけとなる。
- ・学ぶことの理由の明確化
- ・将来につながる学習であることの理解
- ・学ぶ姿勢や意義、学習の仕方の指導
- ・先生が一方向的に話す授業より対話する授業のスタイルにすることが、子どもたちの集中力も上がりやすいと思う。教科書が端末になることは先生の説明が映像で確認できたら、話を聞くことが苦手な子どもでも目で情報を得られるのでイメージしやすい。脳に刺激を受けて眠たくなる事も少なくなる気がする。
- ・社会参画の経験、グローバルな視点、コミュニケーション力
- ・興味と学ぶ意味を知ること、大人も一緒に学ぶ機会をもつ
- ・勉強するための目標、やる気を向上させるカリキュラム、指導内容
- ・理解度による授業
- ・身をもって経験、体験すること
- ・読み書き計算の基礎学力
- ・興味を持たせる工夫。反復はよくない
- ・教科書に囚われない、子供の興味を引ける授業の工夫
- ・人への思いやりや道徳、人権教育の強化と重要性についての学び
- ・各教科毎の指導内容の統一化
- ・生活習慣を身につける
- ・反復
- ・現在タブレットを配られていますが、もう少し役に立てられないのかと思います。例えば辞書の購入などがありました。が、現時点辞書(小学校の漢字など)長い目で使えないものを購入させるくらいならタブレットで検索するなど、宿題等ももっとタブレットを活用しても良いのではと…教科書もタブレットも毎日持ち帰っていますがランドセルがとてつもなく重く身体への負担が気になります
- ・ポプラ社の Yomokka を入れて、ひとり1冊の本で授業が出来るようにして欲しいです。お友達が読んでいるのを待っている時間が勿体ないです。
- ・AI に対応する学び
- ・端末に頼りすぎた学習にならない方が良い
- ・承認
- ・低学年は集中力を保つため、雰囲気切り替えたり、リフレッシュの時間を入れるなどの工夫

- ・読み、書き、計算等の学習をする上での基礎的な力をしっかりつける
- ・基本的生活習慣の定着
- ・学びが楽しいと言う気持ちを持続させること。
- ・実体験を合わせた学び
- ・どうして勉強が大事なのか根本的なことがわからず、ただ言われたからやっているという状態がよいくないと思います。
- ・学習の大切さ
- ・学習の目的意義を興味が湧くよう話してほしい
- ・デバイスを使用しすぎない授業
- ・体験からの学び

② 学習環境・体制に関する意見

- ・埼玉県は関東地区で学力が最下位です。学力の向上が様々な問題解決に繋がる事を考えて頂きたいです。教科の理解度によるクラス分けを早く市内全域に広めてほしい。となりの小学校はやっているけれどここはやってないは困ります。
- ・学習環境、各クラスのある程度のレベルの統一
- ・しっかりと身体を使った活動をする必要があると思います。特に ICT 教育に目が向いていますが本来子供の体と脳はリンクするものとの研究もあるようです。おもいっきり子供たちが体を使える環境があるとよいのかなと思っています
- ・例えば学校に行きにくい子、また、行ける子でも行きにくい日があると思いますが、そういった日にはオンライン授業を選べるようになってほしい。
- ・保育園や幼稚園での毎年同じ発表ではなく、子どもたちの生活を通して主体性を育む活動。毎年同じ発表をするのも子どもになりたい姿が憧れとなってやる気になるのは分かるが、やることが同じだとそこがゴールになってしまい作られたレールの上しか動けなくなるので。生活を通して子どもたちが好きなことを取り組んでほしい。今の活動とプラスすればより良い幼児生活ができると思った。他の市と比べたり、時代に沿っているかをもう一度見直すのも大事だと思う。伝統を守りつつ時代と共にアップデートして子どもたちの経験を増やして成功失敗をしてほしい
- ・友人と切磋琢磨して取り組むこと
- ・30人以下学級、ゆとりあるカリキュラム、先生方の時間的ゆとり、学習内容の精選
- ・担任以外の補助的人員配置して、少しでも子どもたちが主体性をもてるある指導体制や環境づくり。算数は上クラスを目指す、レベル別3クラスに分けて指導するなど、工夫。

- ・楽しい授業を心がけ、分からない子への対処を手厚く行う
- ・体力
- ・学習支援の手厚い環境
- ・学びに集中しやすい静かな環境
- ・1クラス 25 人小規模学級、習熟別授業(数学・英語)
- ・オンライン授業
- ・ケータイは中学校卒業まで禁止の条例を作してほしいです。
- ・少人数学習・クラス。学習レベルに合わせたクラス別授業。
- ・習熟度別のクラス分け
- ・健全な生活習慣(自然に囲まれてよく遊びよく食べよく寝る、よく学ぶ)、人との関わり
- ・勉強ができるようになることが「かっこいい」雰囲気の醸成
- ・学習塾が無いと受験に対応出来ないレベルではない学力水準の向上。
- ・自習、塾、友達との遊びの連携。
- ・高校までの教材費、制服代、昼食費、無償化。タブレット等配布の無償化
- ・先生、クラスメイトとの人間関係の良好さ
- ・個性の尊重
- ・学級崩壊や着席していない生徒がいない集中できる環境づくり。
- ・個に目や手が届く先生の人数
- ・健康的に登校できる荷物量
- ・学力別の指導
- ・中央値の基準で学習進度を決めたり、足並みを揃える学習進度をやめて個々の得意・不得意を考えて進度を決める
- ・学力に応じた授業のレベルわけ
- ・自由時間の確保
- ・一クラスあたりの児童の人数を減らし、個々に合わせた学習指導の充実をはかる。
- ・学力に応じた少人数制の授業
- ・勉強が楽しいと思える環境作り(ゲーム、スマホの制限等)
- ・分からないことを分からないと言える環境
- ・学習に集中できる環境
- ・学ぶ環境
- ・集中できる環境

③ 教員・指導者に関する意見

- ・親と先生の指導力。
- ・教職員を増やし、個に応じた指導を行うこと。
- ・先生の対応
- ・教師の充実
- ・言語聴覚士や作業療法士との多職種連携
- ・教職員の質の向上
- ・対応対応力と個々を尊重できる教育者の人材育成
- ・教員の、教育活動に割くための時間確保。指導力向上のための機会の確保。
- ・教師の質
- ・教員が授業に集中できる勤務環境を整えることによる授業の質の向上
- ・教員の指導力
- ・先生が大好きになり、授業に興味を持つ様なる
- ・教員の質の向上
- ・指導能力向上
- ・指導者の子ども・児童への理解度
- ・教師との信頼関係
- ・教師の教育スキル
- ・少しのことでも先生に認められ、褒められる事
- ・教育職員が授業に専念できる環境を整える。教育委員会が強制している「委嘱研究」の抜本的見直し。
- ・教師の指導力
- ・教わる先生による学力差が出ないような勉強の進め方をしたいです。

④ 保護者・家庭に関する意見

- ・本人が学びたいと思う気持ち
- ・親の意識
- ・親の教育
- ・家庭の協力。学校と共に教育するという意識
- ・小さい頃からの家庭での意識付け
- ・家庭の教育力
- ・家庭学習する習慣と親の意識

⑤ その他

- ・一定程度の競争意識
- ・教育委員会がしっかりしてください。回答しても感謝の言葉すら表示されないことに現状の至らなさが露呈しています。さいたま市を見習うのはいかがでしょうか。
- ・十分な余暇をとらせる
- ・体力と集中力の向上
- ・子ども同士学年関係なくたくさん関わらせること。タブレット教育ではなくしっかり読み書き指導と柔軟な指導力。

- ・地域環境。
- ・保育園幼稚園からの架け橋プログラムの周知
- ・生徒と教師と保護者及び学校と地域の信頼関係
- ・子どもの成長発達に応じた対応(遊びも学習も)
- ・【先輩講話】親や大人がいくら言っても響かない事が多いと感じます。歳の近い高校生や大学生に、中学生の時に「やっていて良かった事。やっておけば良かったこと。」をお話してもらえる機会があるとありがたく思います。

問2	豊かな心を育成するためには何が大切ですか。
----	-----------------------

① 学習内容・方法に関する意見

- ・身につかない詰め込みよりフィールドワークの充実
- ・最近の子供達の言葉遣いが悪くなっているので言葉の勉強や体験して学べる授業などをして欲しい。
- ・いわゆる教室の勉強だけでなく実際に体を動かし手で触れ子供たち同士で協力するというような体験が必要だと思います
- ・偏向的でない多角的かつ公平な思考の育み。ネットの普及によって子供の頃から情報が偏りやすいためテラシーもさることながら分析力、判断力を身につけて欲しい。
- ・正しい歴史認識を育むための歴史教育
- ・苦手なことも工夫して取り組む姿勢
- ・評価されない授業で、子供としての社会性を養う
- ・とにかくスマホやタブレットなど安易な暇つぶしに依存してしまい読書をしない子が多すぎると思います。ネットは自分の興味あるものだけを引っ張ってくるので視野が狭まるし、知識も浅いものばかりになります。どうにか子供たちに読書の面白さを発見してもらい、読書をする事によって知らなかった感情に出会える喜びを知ってもらうことが心の育成にも繋がると思います。
- ・過度な人権教育は希望しません。言論の自由にも十分配慮して多様な意見醸成に努めてください。
- ・日本人である事を誇れる教育してほしい。
- ・様々な体験や受け入れて貰える体感。
- ・ただこなすだけではなく、生きた活動
- ・異なる年齢集団との関わり、ボランティア
- ・少人数で対話重視、主体的な学びの時間を設ける
- ・勉強だけではなく遊びの中から学ぶことがたくさんあると思う。今の子は遊ぶ時間がなさすぎる。昼休みがないのはなぜなのか疑問。(子供の通っている小学校には昼休みがない)
- ・他者との対話から学びを得させる場をつくる、ディベートや発表の場の創出

- ・創作活動をする
- ・個人の尊重、長所を伸ばし短所は目を瞑る
- ・嘘と誤魔化しのない教育。可能と不可能の理由と、力が足りないことを誤魔化さず、ちゃんと話すこと。誤魔化しは、心が通じないことを自覚するサインだと中学時代に思った。
- ・集団での課外活動
- ・食育。満足に食べられない子供達が多すぎる。食品ロスは困るけど、食べ物に困ると全て困る。
- ・先生と生徒、生徒同士の対話の機会を増やす
- ・道徳作文、人権作文は親の宿題のため不要もしくは提出任意にしてほしい
- ・沢山の先生方と体験・会話を出来る時間
- ・豊かな心が何を指すのか具体化してほしいです
- ・日々の対話
- ・ディベートを行う(発言の自由、他者の意見の尊重、子ども主体の討論)
- ・非認知能力
- ・具体的な例を課題として道徳の授業をすることで、全員で意見をし合う。いじめ側といじめられ側に立場を立ててみて、劇をしてみるとかでも当事者にならないと分からないこともあると思う。実際こんなことをしたら批判受けそうなので、出来ないかもしれないけど。
- ・映画、音楽、絵画鑑賞
- ・動植物の世話など、何かを大切に作る体験。頭で分かるだけではなく体験を通じての実感が大事だと思う。
- ・大人が子どもと一緒に沢山、遊び子どもの「何故？」にちゃんと耳を傾ける事。
- ・対話
- ・いろんな経験をした方から話を聞いたり、命の大切さなど学ぶ機会があればいいと思います。
- ・他学年や地域との交流
- ・いじめられた側ではなく、いじめた側を教室から退室させる。また「いじめ」という言葉ではなく、傷害罪、など明確な言葉で表す。
- ・クラス単位で区切らない制度。教室やクラスを廃止し各教科レベルに分けた授業を。
- ・性教育、出産、育児、お金、生きていく為に必要不可欠なことの教え
- ・芸術活動(観劇、製作体験)
- ・課外活動(特に、自然環境の地に訪れる)
- ・言葉の重要性を理解する。言葉が凶器にならないようにする。
- ・気持ちを言語化できる能力の育成

- ・役にたたない、英語を止めて、日本の歴史観の充実を図る。日本の歴史感
- ・良い食習慣、自然に恵まれた環境、温かく子どもに関わる大人、子ども同士である程度自由に遊ぶ時間、場所、五感を使う原体験を増やす
- ・生徒が主体となったディスカッション多めの座学で無い学習体験を多く。
- ・世界の子供達の現状を知ること、自分の環境との違い
- ・勉強(時間、記憶術他)と遊び方
- ・海外交流(欧米)
- ・音楽活動
- ・プライベートゾーンについて教えることを幼保・または小学校入学後にして欲しい。
- ・過去数年でイジメ認定された実例を挙げて具体的に指導する

② 自己肯定感・人間関係に関する意見

- ・自己肯定感や自己有用感の醸成、特別支援学級や学校との交流
- ・学力競争の中止、ゆとりある学校生活、人と人の温かなふれあい
- ・大人(親や家族、先生)との信頼関係
- ・自己評価を上げる指導
- ・他者の違いを認める教育
- ・子どもが話しやすい環境の推進と充実
- ・いじめは社会に出てからもあるので、防止ではなく、対応力を学んで欲しい。認知行動療法が必要。物事の受け止め方が安定していれば、他者との違いに寛容になりいじめも減るのでは。
- ・自分自身を大切にしてい。ということを思えるように。
- ・いじめについては、加害者を守る制度ではなく矯正する制度が必要だと思う。
- ・想像する力を育むこと
- ・自宅での親子の時間、友人とのかたまりな関係
- ・個人に合った対話
- ・子供達の心の安全安心を担保してあげられる
- ・自己肯定感を高める学校の雰囲気づくり
- ・「あなたはあなたでいいんだよ」ということが認められる環境
- ・自分の意見や感情を大人から否定や決めつけをされない環境
- ・様々な年代の人との交流
- ・子どもの特性をみつけてあげ、伸ばしてあげる事により、心が豊かになると思います。

- ・生徒と教師と保護者及び学校と地域の信頼関係
- ・そばにいる大人に倫理観があり、思いやりがあることだと思う。
- ・こどものペースに寄り添う、大人側のこころのゆとり（自戒を込めて）
- ・自己肯定感の醸成
- ・いじめや問題行動をしてしまう子の家庭へのサポート
- ・いじめた側の罰則を強化するべき
- ・学校以外での活動や人との関わり
- ・承認
- ・多様性を認めること
- ・異世代交流
- ・型にはまらないその子らしい人格を否定しない

③ 教員・指導方法に関する意見

- ・家庭への指導共有
- ・生徒指導の体制は今一度考え直す所なのではと思います。
- ・上尾市公立保育所での保育内容のアップデート。生活を主としている保育園と教育をする幼稚園で違うのは分かるが、他の市と比べてずっと変わらない保育をしていると思う。子どもの声に耳を傾けてそれを発表する機会を持ったり、自分たちで作る表現(制作ではなく)をできるようにして積極的に行動や話ができるような安心して発言できる機会を作って欲しい。それを経て、豊かな心を育てて欲しい
- ・先生自身が見本となるような行動、言葉遣い
- ・良い先生や担任の先生に出会えること
- ・時間や場などの余裕のある環境で、教師と児童・生徒との心の触れ合いが必要です。
- ・合理的配慮の実施
- ・画一的ではない、きめ細やかな指導
- ・教職員の子どもへの丁寧な対応
- ・子どもの権利と自由が保障される環境にあること。
- ・大人がたくさん話し、聞き、対話すること
- ・多様性についての理解・推進。教職員・子供共に
- ・先生の休養
- ・教職員の教育
- ・親、教職員が日ごろから言葉に気をつけ威圧的な態度を取らず、思いやりのある対応を見本として見せること。
- ・先生からの理不尽をなくすべき
- ・先生方が無理なくペーパー仕事をなくし楽しく仕事のできる環境が整えば、子供たちも豊かな心が育成できると思う

・幼稚園、保育園の頃から家庭と連動して取り組む。親も子育てや道徳を学べる環境を配慮。通園しながら、懇談会每など数分で理解できる内容提供など教育連動があるとよい。他者を思いやれる環境作りを希望。幼稚園のカリキュラムの中に心の教育を取り入れてほしい。ある幼稚園に通う子供さんの中に、親に暴言をはく態度が日常になっている様子を何回か見かけました。同じ子ではなく複数の家庭で。

- ・教員の質
- ・生徒の観察、教員の観察力を養う
- ・先生がゆっくり休める場所・時間の確保、子どものキャリア形成に役立つ専門性の高い機関による特別授業
- ・親又は教師と子どもの関わり方(心に余裕を持って、子育て・教育が出来ているか)
- ・ひどい児童へは先生の厳しい指導は周りの被害を受けた子にとっても必然。遠慮不要なので厳しく対応してほしい。
- ・教育体制のアップデート、個人の長所を伸ばす教育
- ・新渡戸文化小学校の教育スタイル
- ・指導者の伝え方
- ・教師側(教える側の能力の再確認と向上)
- ・最近は学校で決められただけの学習をきちんと終わらせることばかりが重視されているように感じます。先生方がゆとりを持って子供達に向き合ってもらえる環境がもっと整っていったら良いのにな、と感じています。
- ・教師の心が良好であること
- ・人との交流が心を育てる。指導者が豊かな心を持っていないと豊かな心を育てることはできない

④ 学校環境・生活に関する意見

- ・郷土愛の育成。地域の一員である意識の醸成。
- ・外遊びの推進
- ・自然との触れ合い
- ・学校行事の充実。共に励むことでお互いの思いやりや、共に築き上げたという気持ちの芽生え
- ・非日常体験、文化芸術に触れる
- ・仲間意識。グループ活動。
- ・清潔で整理整頓がなされた環境
- ・ゆとりのある教育
- ・余裕のある学校生活
- ・集団、グループでの活動。学年を超えての活動。
- ・ルールばかりで自由を奪わないこと。
- ・安全に多くの人と関わることでできる場所
- ・時代に合っていない規則の廃止
- ・精神的な余裕

- ・SNS の利用の仕方
- ・社会参加の推進

⑤ 家庭・保護者の役割に関する意見

- ・親が善悪を教える
- ・家庭教育
- ・家庭での環境の改善
- ・家族との会話
- ・家族からの愛情
- ・家庭家族での時間
- ・家庭内での愛情
- ・安心して過ごせる家庭、家族の会話
- ・親との関わり合い
- ・家庭環境
- ・各家庭の躰
- ・家庭内の教育

⑥ その他

- ・大人、子供向けのメンタルヘルス教室の開催
- ・一つやふたつに限定する事で育成できるものではない。
- ・地域を通しての人間としての家族以外の他者との繋がりも大事だと思う

問3	健やかな体を育成するには何が大切ですか。
----	----------------------

① 部活動・運動に関する意見

- ・部活動が地域移行されることで中学校自体の部活動も制限され、少なくなり、生徒の移動距離や手段が制限され、やりたい部活動を諦める生徒達が出てきています。この現実ご存知ですか。
- ・朝マラソンなどの持久力
- ・部活の地域移行によっての子供達の格差が生まれる事を気をつけて欲しい
- ・雨の中に無理やり部活をやり体調を崩させない無理の無い部活動
- ・部活動が地域移行すると、金銭的に余裕のない家は参加できません。また意欲的でない子は参加してきません。あえて日曜日、禁止にまでしてほしくない。上達しない。
- ・日々の運動
- ・児童・生徒の自発的・自覚的な体力向上のための環境整備。
- ・運動、体育を楽しめる学校の雰囲気
- ・毎日部活動に打ち込める環境(こどもだけでも自主練習ができる)
- ・気軽に運動できる環境の充足
- ・外遊びの推進

・地域移行反対です。放課後が自由すぎて非行が目立ってきていますね。

- ・公園等の整備、小さい子だけで無く中高生も遊べる、体を動かせる、ボールが使える環境
- ・得意な事を無理なくこなせる体力
- ・みんなで自由に遊べる環境と時間
- ・仲間とのスポーツや外遊びを推奨する
- ・学校での部活動
- ・運動を継続するには、部活動がある方が初めやすいですし、部活動の方が送迎の事も考えずに継続出来ると思います。
- ・体を鍛えることへの嘘と誤魔化しのない教育。なぜ必要で、何が得られるか。その評価理由と評価しない理由、そこに間違いがあるなら、改善出来てないことを素直にそれを伝えること。
- ・屋外での活動
- ・中学生の時期に部活動を行うことは心にも体力的にも必要なことだと感じます。希望者だけでなく全員が何か打ち込めるものを見つける機会が必要だと思います。
- ・十分な遊び
- ・体育の授業が嫌いにならない指導法
- ・部活動の地域移行を止める。センター給食を止める。小中ともに自校給食にする。そこにお金をかける。
- ・朝マラソン、持久走大会
- ・朝ラン
- ・運動時間を削減しないこと
- ・部活動を外部へ移行ではなく学校で行って欲しい
- ・今上尾市で活動しているスポーツ少年団をもう少し活用できると思う。
- ・小さくても大会など!成功体験も。
- ・ストレッチや体操、美しい姿勢
- ・屋外でたっぷり遊べるだけの休み時間
- ・部活は、わざわざ運動をしたくない!という子どもにもさせられるきっかけの物だと思います。年齢が上がる毎に運動はしなくなりますので、まだ中学生には短時間でも運動を学校の放課後にさせてあげたいのは事実です。地域移行にすることで、学校の先生の負担が減ることは良いことですが、今後は子どもたちの運動量が減らないためにも学校での部活はとても大事だと思います。
- ・学校単位の部活動と地域クラブの両立
- ・学校でボール、なわとび、走る、跳ぶなど朝運動を取り入れる。多様なスポーツを経験できるスポーツ少年団などを作る

- ・休み時間や放課後、始業前時間を増やし外遊びの時間を増やす。
- ・働き方改革という事でマラソン大会の中止、運動会ではなく体育発表会という発表会に変更されたり、子供達の体力向上する為の事柄がなくなっていく一方ですね。体力・忍耐力向上の為にも無くしてほしくないですね。
- ・スポーツを通じて学年を越えた生徒同士と教師のコミュニケーション
- ・学校での部活、運動の推進
- ・学校内での部活動をなくすことはなくして欲しい。
- ・苦手な子でも取り組めるハードルの低い運動
- ・体育は個人の能力に合わせ、また気温天候を考慮し過度な急激な運動にならないように。体育や部活での救急搬送事故を起こさない予防的処置が重要。
- ・勉強、運動、遊びのバランス確保
- ・土日は、地域展開部活動。平日は、各学校で部活
- ・自由に遊べる環境、場所
- ・運動の楽しさを感じられる体育の授業内容

② 食育・給食に関する意見

- ・給食費無料反対です。値上げしてでも質の高い食事を子供に食べさせてほしい。給食が美味しいと登校意欲に繋がります。値上げが難しいご家庭は個々に支援して下さい
- ・保護者に対する子供たちにとって必要な栄養や活動について家庭教育が必要だとおもいます。またできる限り食の現場と子供たちの距離を近くし食べ物が大事なことを身に着けることが将来の健康へとつながると思います
- ・日本の学校ではパンや牛乳を控え和食を主とした給食が望ましい。
- ・部活動の地域移行を止める。センター給食を止める。小中ともに自校給食にする。そこにお金をかける。
- ・健やかな体をつくる、維持するための学習(食事や睡眠の必要性など)
- ・給食時間の延長と給食内容の見直し税金を投資し豊かな給食を子どもたちへ
- ・十分な給食の時間の確保
- ・睡眠時間、給食の食事時間
- ・教師が好き嫌いせず、感謝して給食を食べること
- ・給食の時間が短く苦痛に感じている子もいるのでもう少し長くしてあげて欲しい。
- ・給食の時間が短い
- ・机の移動や配膳のため給食を食べる時間が短すぎるため、給食時間を伸ばす。早食い防止にもなりよく噛む事で満腹感を感じ、料理を味わう事もできる。

- ・子供達の栄養を考えた献立。物価上昇や給食費の予算のかねあい兼ね合いもあると思うが給食費を払ってでも良いから子どもたちには栄養の行き渡り献立にして欲しい。
- ・市議の一人が農水省のデータに相違なしと判断された無農薬・オーガニックを推奨する旨を書いていたが、それよりも高タンパク・成長に見合う量が必要だと考えます。

- ・地産地消、オーガニック給食

- ・給食の時間が足りない事もあるようなので時間の確保

③ 保健・生活習慣に関する意見

- ・保健教育の充実
- ・健全な心を育てること
- ・規則正しい生活、適切な休息の時間
- ・発達段階に応じた生命の安全教育や性教育の充実
- ・保健科目については、産科や整形外科の医師の監修
- ・健やかな心
- ・早期の性教育を充実させる
- ・現在体育の授業はほぼ成果制なので、体を動かす楽しさやスポーツマンシップを先ずは教えて欲しい
- ・睡眠
- ・健康な精神の育成
- ・親子の会話、就寝(睡眠)時間、環境整備(空調)
- ・規則正しい生活
- ・睡眠
- ・健やかではない時、どうすればよいか教えてください
- ・定期的な健康診断とその結果に基づく健康への考えと取り組み方の実施
- ・睡眠時間の確保
- ・激しくなくてもいいから日々の運動と十分な睡眠。
- ・健康知識と学習の機会
- ・健やかな身体の重要性の認知を深める。
- ・睡眠の質と量
- ・保健などで規則正しい生活習慣の重要性学習する。スクリーンタイムを減らす取り組み。
- ・食生活の改善、早寝早起き、スマホなどデジタルに触れる時間を減らす、生活の中で自然と運動できるまちづくり(遊歩道や公共交通整備など)自然に触れる機会を増やし運動が苦手な子も身体を動かしやすくする
- ・生活リズムを整える。良質な睡眠。
- ・生活習慣を整える

④ 地域連携・環境整備に関する意見

- ・公園や子どもが楽しめる遊び場

- ・地域での活動、習い事を選びやすく探しやすい、明確に知りたい。
- ・公園等の整備、小さい子だけで無く中高生も遊べる、体を動かせる、ボールが使える環境
- ・公園などの子どもが楽しんで遊んだりできる場所
- ・防災活動やキャンプなどの野外活動の推進
- ・タブレットは目の健康を阻害するのでやめてほしい
- ・自由に遊べる環境、場所

⑤ 子どもの自由時間・精神的なゆとりに関する意見

- ・子どもたちの自由な時間の拡大、遊びの空間の確保
- ・クラブ活動が少なく時間を増やして欲しい
- ・一定程度の競争意識
- ・精神的な余裕

⑥ その他

- ・指導者の伝え方
- ・家庭次第だと思います。
- ・イベントの中止や削除が多い
- ・夫婦仲と親子関係が良好
- ・それぞれの家庭での生活
- ・親、家庭環境のケア

問4	自立する力を育成するためには何が大切ですか。
----	------------------------

① 教育体制・学習方法

- ・もう少し競争や勝敗を体感する教育
- ・興味ある事を調べさせる
- ・ディベートや自分で興味を持ったことを調べるなどの学習
- ・親の意向から学力不要で育ってしまうと、本人が気付いた時には身動きが取れなくなってしまうので、公立小中学校で最低限の基礎学力を身につけさせること。
- ・児童・生徒に対する教育委員会の影響力を極力少なくすること。
- ・自立に向けた段階を踏んでのカリキュラム制度
- ・もっと自由度の高い学校を目指す。色々なことがギチギチすぎて子供たちがかわいそう。好きなことができない。
- ・古くからある時代にあっていない学校のルール of 廃止
- ・適切な校則。誰もが納得のいく理由での制限。
- ・学校での当番活動
- ・学生の時にはしっかりと学問を学ぶ。
- ・家庭、学校生活の中で自分 1 人、生徒数人でできるという成功体験
- ・自立とは何かと意識付け出来る授業や講演し、本人に理解させる事

・普段の授業や特別活動を通して仲間と協力する力を磨くことが自分の役割というものを考えるきっかけとなり自立を促すのではないかと考えます。

- ・学校における自己決定の機会
- ・主体的に動く授業を増やす、リーダーシップの体験
- ・表現力、主体性、論理的思考能力の育成
- ・恐れずに挑戦する環境
- ・ディベートをしたり、自分の考えを自分で伝える力を育成することが大事だと思います。
- ・よくグループワークとかを、すると思うけど、やる人は決まってしまうので、必ず 1 人 One コーナー与えるなどして誰かに任せられる状態が起こる。
- ・子どもに選択させ、行動に責任を持てるように教育すること

・年齢に応じて、何がどのくらい出来ることが一般的に求められるかの明示と(ここが大人の考えと子どもの考えの相違があるといつまでも縮まらない)、それを出来るようになる為には…の道筋を例示し、子ども自身に達成までの過程をイメージさせ、書かせるなどして自覚させ、それに沿って個々の行動変容を求める。その途中経過も観察し、声掛けなど行う。学校と家庭との協力で行う。

- ・小さくても自分たちの力で社会を動かすような体験
- ・子どもの力を信じて兎に角やりたい事を、やらせてみる。
- ・普段からの学校活動や、決め事(見直し)に児童の意見を参画させる事。
- ・自ら考えて行動する力の育成。今のように言われたことをやる教育では難しいと考えます。
- ・子供達だけで企画から行うイベントをたくさん催す
- ・ディベートや自分で興味を持ったことを調べるなどの学習
- ・課外学習、活動
- ・個人の意見を主張しあえる教育体制
- ・生活するための授業
- ・教育活動での役割を、責任を持って行うこと。係や委員会など。
- ・国語力の向上。
- ・人には得意不得意があり、得意を人の為に活かす礎として、又それによって個々の違いに気付き寛容になるきっかけとして小学校にも選択教科があっても良いのではと思います。

② 自主性・主体性の育成

- ・自分で考えて活動させられるゆとりの確保
- ・自分で考えて実行すること。
- ・自主性、自分で考え行動する力を養う

- ・自分で時間を見て行動する。何事も(怪我や事故の無い様に)チャレンジさせる
- ・失敗を恐れないこと、何でもやってみる事ができる周りのサポート
- ・自分の考えを持ち、考えを言語化し実行する力をつける
- ・自己実現に向けての自己の育成
- ・自分で考える力をつける
- ・苦手なことがある人に対して非難するのではなく、助けることを促せる環境があれば、自分の役割を自覚できるのではないのでしょうか。
- ・自分に合った生活や職業を知る機会や体験の充実を
- ・失敗を前向きな学びに活かせる環境、PDCA を子ども自身が回せるようにサポートすること
- ・依存させない(手助けし過ぎない)子育て、教育。誰かの役に立ち、感謝される経験を多くさせる。異年齢の子どもと一緒に過ごす時間を増やす
- ・失敗から学ぶ成功体験
- ・学校内で中学以降は、授業のカリキュラムを自身で選べせて、先生は、その評価、助けをする。また各学校に担当を雇って指導する。
- ・自分の意思で物事を決めること
- ・自分で考える力を養う
- ・自己責任の範囲を自覚させる
- ・自分で経験し、感じ、考える事
- ・自分で考えて行動する機会を、大人都合(時間や場所や社会人のルール等の理由)で奪わないこと
- ・なんでも経験させること。成功も失敗も

③ 社会性・協調性の育成

- ・世代間の交流
- ・多様性の確保
- ・社会に出て求められる姿勢やスキルについて、今するべきことを教わる事
- ・SDGS のような社会的コンセンサスが取れていない偏った思想を子供に植え付け洗脳するのはやめていただきたいです。
- ・犯罪に巻き込まれないための知識や、万が一のときに頼れる行政機関、法律の知識などの習得。
- ・生きている事の尊さ。学校に行けている、着られる服がある、食べられるものがある、恵まれている事を知り、自分自身を大切にしたい気持ちを育て、その土台を作ってから本人にどんな大人になりたいか考える時間を作りたい。
- ・多様な学問や職業分野を早期から紹介していく。
- ・社会のしくみに関する知識

- ・基本的な挨拶や相手の意見を聞き入れる、自分の意見や気持ちを伝える力だと思います。
- ・社会での自立は勉強だけでは満たせない為コミュニケーション能力の豊かさ、育成
- ・社会の成り立ち、役割、子どもが置かれている現状、助けられながら生きている事実を教育すること
- ・係や担当の拡充
- ・外国人との交流
- ・学年を越えた生徒同士と教師と保護者のコミュニケーション
- ・社会参加
- ・たくさんの人と関わりを持つこと

④ 経済・生活に関する知識

- ・職業の様々な種類を知る。経済のことを知る。根底の衣食住の成り立ちや歴史を知る。
- ・金融知識やお金の使い方
- ・小学校より職業、職種についての学びを知る事で目指す目標を早く持たせる事。
- ・政治、経済の勉強
- ・企業と連携した会社見学や工場見学
- ・国の法律について
- ・簡潔に言うとお金の流れや収入等の仕組み
- ・経済・金融教育
- ・生きていく上で必要なお金の知識を義務教育中に学ぶ
- ・家庭科の授業の充実
- ・金融教育
- ・資産形成などの学習
- ・マネーリテラシーの教育
- ・投資教育
- ・金銭、商売、社会の仕組みのリアルな教育
- ・模擬店などでお金を稼ぐ体験(経費、作業時間、作業人数による 1 人あたりの時給などの計算)
- ・お金の勉強
- ・金融リテラシー教育の充実
- ・金銭教育
- ・生活科、家庭科
- ・お金を稼ぐ力を育てる
- ・社会の仕組み、税の仕組みなどをしっかり知ること
- ・税制や社会保障に関する教育
- ・資格の種類と説明が必要と考えています。資格を必要とする職業が多数存在しているからです。

⑤ 自己肯定感・心の安定

- ・自己肯定感、自己有用感の醸成

- ・小さい頃からの積み重ねだと思っているので、集団生活のなかで主体性や自己肯定感を高めること。
- ・自分の心の安全が思えた上での、他の質問項目の推進。
- ・良好な親子関係の構築。家族という1番小さなコミュニティの中で自立できない子が社会で自立していくことができるわけがないと考えるため
- ・心の発育にあわせた自己肯定感の育成
- ・自己肯定感を高めるための成功体験、個々の強みを伸ばしていくこと
- ・自分を大切にすることや困った時に援助を要求するスキル
- ・承認
- ・ありのままを受け入れられる柔軟性
- ・愛
- ・成功体験の積み重ね
- ・子供が安心できる、認めてもらえる環境を整える
- ・自己肯定感、多様性を受け入れる気持ちを育む

⑥ 環境・関係性の重要性

- ・自立出来なくなった人を救う方をもっと育てる。またはそうならないよう繋がりのある社会をつくる
- ・放任ではなく見守る力が大人に必要
- ・家庭との連携
- ・学生生活において選択する場面、認められることを体感すること
- ・親、先生の口出し、手助けが多い。失敗や挫折をたくさん味わい乗り越える力を培う
- ・子どもを一人にしない。親が働くのを優先させない子育て優先すれば子どもは心が安定し自立するのでは？
- ・教師が教師以外の職業に詳しくなること
- ・こうなりたいという見本の大人がいること
- ・そもそもの画一的な教育体制を変える事や家庭でのお世話のし過ぎを減らすことで、自分で考えて自分でやってみる事の積み重ねが必要。安全に守りすぎるのでは無くもっと色々チャレンジ出来る環境。
- ・選択する環境

⑦ 家族・家庭の役割

- ・家庭での役割などについての家族との対話
- ・家庭、集団生活での役割
- ・教員が子供の私生活に関与しない(親も学校に関与することを求めない)
- ・感謝の気持ち
- ・各家庭での教育
- ・家庭の子育て力

- ・安心できる家庭と学校の基盤があるからこそその自発的な自立を促す
- ・保護者への教育。自立してない親が多すぎる
- ・親、先生の口出し、手助けが多い。失敗や挫折をたくさん味わい乗り越える力を培う

⑧ 経験・体験の機会

- ・課外活動
- ・なんでも経験させること。成功も失敗も。
- ・体験、個々に合うものをみつける、長所を伸ばし短所は目を瞑る
- ・日常生活での成功体験
- ・身近な大人や学生の体験談を聞いたりする
- ・職場体験の機会をもう少し増やせるとよい。
- ・ボーイスカウトに参加
- ・社会の一員としての実践的なお金や法律に関する教育の充実(企業の出張授業など)
- ・技術家庭科の充実、マネー教育
- ・将来について、考える機会
- ・夏休み等にボランティアで経験や体験する事が出来る機会があればと思う。企業や施設等の協力が必要となるので直ぐに実現するのは難しいと思うが、スタンプラリー等を取り入れたら子供も楽しく取り組めるのではないだろうか。ボランティアを通じて自分がやるべき事や必要とされる事も実感できるのではないかと思う。
- ・ボランティア活動
- ・働く大人の姿を見る体験
- ・画一的な体験や指導では達成できるものではないと感じる。様々な体験を通して個によって違う最も個に適した物を見つける手助けが必要。
- ・大人の世界をしっかりと見せて話していく
- ・社会貢献の経験と動機づけ

⑨ その他

- ・選択肢の中に該当なし
- ・なぜ選択肢に「社会に従う意識」しかないのか。だから思い通りにいかないのでは？従う人間=依存する人間です。
- ・思春期などで心のコントロールが難しい年代。地域を巻き込んで心のコントロールと成長を手助けできる体制強化。いじめ、自傷自殺の予防的にも重要。

問5	多様なニーズに対応した教育を推進させるためには何が大切ですか。
----	---------------------------------

① 教員・人員体制に関する意見

・昨今教員の働き方改革が取りざたされていることで各学校での様々な取り組みに縮小が起きているようです。これはこのアンケートの多様なニーズに対応した教育から離れて行ってしまうように感じています。さまざまな方面の行事があることで子供たちがそれぞれの分野で力を発揮する機会が得られると思っています。先生方のご負担はわかりますが安易な行事の縮小を図らないことが大事かと思ひます

・教職員の人員増、給料待遇増

・教師の充実

・現場の人材確保

・多様なニーズに対応し得る人員の確保

・教職員を増やし、柔軟な対応をできるようにすること。

・他職種を経験した教師の募集

・人手を増やすこと。そのための予算をつけること。先生方の努力や工夫だけでどうにかできるとは思えません。

・教育者を増やす、教育者の育成

・教員の数を増やしてほしい。35人に1人先生でなく、副担任、もしくは、学年にプラス1人先生の数を増やしてほしい。先生の負担も軽減し、求人も将来的に増え、生徒へのきめ細やかな対応も可能になると思ひます。あっぱれサポーターの配置の定義に発達障害児(疑いを含む)及び肢体不自由児等が在籍する。通常学級に対し、学級担任を補佐するための支援員を配置する。とありますが、実際は一年時の、生徒の宿題の丸つけ、配膳の手伝いなど、本来の目的とはそれている気がします。知的なく困難を抱えている生徒にも目をむけてほしい。

・多数の生徒に対して多様なニーズに応えるのは難しいと思ひます。かえって、応えようとするあまりに浅い教育になりそうな気がします。教職員の方だけでは人手が足りないと思ひるので、協力者を増やした上で検討が必要だと思ひます。

・相談員や専門員の拡充

・教員の専門性の向上、

・各ニーズを経験し対応できる人材。

・教職員の人員を増やす

・少人数クラスの実現、サポーター増員

・教員の方を増やしたり、1クラスの人数を減らすのが先だと思ひます。今の状態だと、家庭での困りごとや気になることを先生に伝えにくいと思ひています。

・教職員等の人的支援

・1クラスの人数を20人台にする。教員1人に対する児童の人数を減らす。

・先生の負担の軽減。学習面では課題等以前に比べだいぶ減っている。先生の負担を減らすために子供の勉強や部活を減らすのはおかしい。先生の負担を減らすには雑務を担当する人と副担任、各クラス3人体制にするくらい改革してほしい。

・教員の増員または、少人数教室

・習熟度別の指導

・上記のような障害、不登校などごく一部の子供への対応に気を遣いすぎ、その他大勢の子供をもっとしっかり見てほしい。教員の数の拡充が必須

・学級の少人数化、または1クラスに教員を複数人配置

・先生方の職場環境の向上。

・少人数クラス。ホームルームは作るが学習は習熟度別にする。

・教員が先ずは多様性を持つ事。職員室内(特に昔行っていた職員会議。今は職員集会と呼び校長からの連絡事項の一方通行で終わると聞いている。)で教員同士が意見を出し合い関連に議論する事をしないと駄目なのではないか?

・グリーゼンの子供達を担当できる専門の副担任をクラスに1,2人必ず配置する、同時に教職員の給料を適正な値に上げる

・専門性のある知識を教えてくれる人が必要とは思ひうが先生の負担がさらに増えてしまうので信頼ある外部組織との連携が現実的かと思ひう。

・教員数の増加(今の状態でこれ以上現場に求めるのは酷です)

・教育現場の心の余裕

・教職員の増員

・先生1人が受け持つ生徒の数を減らす。生徒たちがクラスを超えて関わりをもつ。

・個々人に合った対応できるための職員の増員

・教員の指導レベルの向上

・クラス人数の見直し、複数担任制

・先生の業務が忙しいことはわかっていて色々と作業を減らすことも賛成ですが決定されている保護者と担任の対話が年1の個人面談のみなのは少なすぎと思ひます。

・少人数学習・クラスによる目の行き届きやすい環境づくり。もしくは副担任をつくる。

・人員の確保

② 多様なニーズへの対応に関する意見

- ・不登校の未然防止は人それぞれの理由があることから、なった場合の支援や相談の充実を特に図って欲しい
- ・インクルーシブ教育なんて、普通の保護者が理解しているのか？学校だってインクルーシブ教育はまだまだ実践していないというのに。
- ・不登校は誰でもなるという認識を大人がもつこと
- ・アレルギーへの対応
- ・インクルーシブと習熟度のハイブリッド。学級活動はインクルーシブで、吹きこぼれ防止の観点からも教科教育は習熟度別で。
- ・学習障害のある児童に対する合理的配慮の推進
- ・多様なニーズに対応しようとしすぎて、通常級の対応の向上が見込めない方が心配である。少数派に傾きすぎていると感じる。
- ・特別支援学校(又は学級)に入る程ではないが、学力や知的発達が通常学級では教員に負担が大きいグレーゾーンの生徒への対応。また、知的発達や学力が通常或いは高いがコミュニケーションや集団での行動や生活に支障がある生徒(いわゆるアスペルガーなど)に対応する仕組み。
- ・特別支援級に人員を割くのではなく、通常学級に皆で学べる環境を整える事で自然と子供たちは多様性を受け入れられるように育つ、わざわざ分ける事で違くと認知する。そして通常学級でももっと体験的活動を増やす等自ら学ぶ意欲を引き出す事も必要なのではないかと思う。
- ・学校設備のバリアフリー化
- ・きめ細やかな指導が可能になるための少人数教育の推進
- ・多様なニーズなんて、全て対応できない。マイノリティ全てに寄り添い、ニーズに対応していくなら集団授業などできないと思う。
- ・自由度の高い選択制教育・本人のやりたいことに特化できる教育体制
- ・オンライン授業
- ・個室(別室)登校などの環境
- ・外国籍児童へのサポート
- ・不登校でもパソコンや携帯があれば勉強できるようなシステム、コミュニティ
- ・嘘と誤魔化しのない教育。可能と不可能の理由と、力が足りないことを誤魔化さず、ちゃんと話すこと。誤魔化しは、心が通じないことを自覚するサインだと中学時代に思った。
- ・多様なニーズが多様すぎて回答が難しいです

- ・フリースクールの充実
- ・同じ事が出来て当たり前だけが正解にならない教育
- ・小学校にもスクールカウンセラーや相談員を常駐させる。
- ・個の特性をまずは保護者が理解しなければ受け皿をいくら行政で用意してもすべての子どものニーズには応えられない。保護者の知識、理解の学びの情報提供が必要と感じる。
- ・普通科でも支援学校でもない発達障がいの子の為のはざまの高校が必要
- ・手が出る子を支援学校か、支援学級に行かせて欲しい。
- ・最近ではADHDやASD、自律神経失調症など朝から活動できないと言うお子さんが増えてきて、今までの学校のしきたりでは卒業を見込めない事も(高校からは)多くなっている。不登校になり気味の子どもにはオンラインで通信制みたいで、1日のうちならいつでも見ることが出来るなど多様化できたら授業を受けられる子どもも増えると思う。中学までは基礎を学ぶ時期でもあるので、未然防止は理想ではあるけど防げることではないので、その子達にどこまで対応できるかだと思うので、学校の仕組みを増やしていく必要があると思う。
- ・何でも子どもの発達障害で支援学級に任せる教員が増えたこと。一度見放された子どもの不信感は簡単には払拭出来ない、不登校は減らない。
- ・ICT 端末による弊害を専門的に解決できる相談窓口の設置
- ・個性を活かす教育
- ・できる子を放っておかず、更なる課題を与えて伸ばすべき。
- ・多様性は、受け入れられない人も含めて存在するということを認めないと押しつけになってしまうという事を提示してあげないといけないと思う。
- ・通学支援、フリースクールの充実
- ・そこまで多様なニーズに対応することはないかと
- ・多様なニーズに対応できる公立学校があるとよい
- ・大人が自分の想像力の無さに気付き、自覚すること。ニーズに応えるのではなく、求められる前に自ら気付けるように想像力を働かせること。
- ・不登校の子どもの居場所作りにより力を入れていただきたいです。義務教育の学校だけでなくファッションや動画編集、調理など将来職につながるような専門学校が7歳から15歳の子供のためにあってもいいと思います。
- ・不登校に対するグローバルな対応
- ・多様なニーズより個々の能力の向上

- ・不登校がダメという考え方を捨てる。
- ・インクルーシブ等の横文字使用はお勧め出来ません。
- ・多様なニーズを学校側が把握できること
- ・サポーターさんの増員により、注意ではない！こまめな声かけ
- ・特に全職員へ、通常学級だが支援が必要な生徒へ
- ・承認
- ・形にとらわれない教育
- ・学習が遅れた児童生徒への支援
- ・上尾市にも学びの多様化学校を設立していただきたいです。ホームスクーリングも出席扱いにしてほしいです。都内の「いもいも」のように出席扱いになるフリースクールや塾があると助かります。
- ・一斉教育、集団行動の時間を減らし授業中にグループ学習、ペア練習など個々が作業する時間を増やす

③ 家庭・地域・学校連携に関する意見

- ・幼稚園保育園との連携
- ・保護者の協力的な態度。
- ・家庭との連携
- ・保護者の要望とわがままな要求の区別
- ・保護者と学校との会話
- ・家庭とのつながりやかかわり
- ・学校と保護者の連携

④ 教育内容・システムに関する意見

- ・英語教育の促進。幼稚園や保育園からの早期教育を取り入れてグローバル社会に適用できるようにして欲しいです。
- ・需要と供給のバランスがとれているかどうか。多様なニーズの把握ができる体制作り。
- ・物事の善悪を毅然と対応、何かあったら被害者を隔離するのではなく加害者を厳しく罰する
- ・語学、投資等の人生に必要なことの授業
- ・子供たちだけで気軽に高校見学へ行けると良いなと思います。学園祭や進学フェアだけでは足りません。
- ・多種の職業による連携
- ・トップダウンではなく各学校にある程度の裁量権を与える
- ・社会の協力
- ・今ある活動をもっと活性化させるための財源確保
- ・指導者の理解度、伝え方
- ・5歳児健診の実施
- ・校長含めた子供を預かる側(教師)の様々な問題に対するリテラシーが低すぎる
- ・生徒と教師と保護者及び学校と地域の信頼関係

- ・自由で開かれた校風、風通しの良い雰囲気
- ・スクールカウンセラーの充実と専門性・独立性の確保
- ・海外交流(欧米)
- ・性教育やネットリテラシーなどの教育

⑤ その他

- ・学校内外における「子どもの居場所」を徹底的に検証したうえで子どもたちと向き合うこと。
- ・設問の意味がわかりません
- ・もっと簡単な言葉で選択肢が欲しいです。
- ・必要な学びを外部の専門家に依頼して学べたらうれしい。餅は餅屋です。
- ・初等教育の場だけで進められるものではなく、先に社会全体への啓蒙が不可欠だと思う
- ・学校の外部との連携
- ・親の自覚も持つ親の心構えの教育も必要
- ・不登校の受け皿になる民間団体への支援
- ・異文化理解、グローバルな活動

問6	質の高い学校教育のための環境を充実させるためには何が大切ですか。
----	----------------------------------

① 教職員の確保と待遇改善

- ・授業中の補助の先生などの人数確保。分からないまま進んでしまう子がいなくなるようにしてほしい
- ・教員の待遇向上
- ・先生方のご負担は増えるばかりというのはわかります。そのため、可能な限り人員に余裕が出るような制度が必要になってくると思います。そのためには国の仕組みそのものから変更が必要かと思います。
- ・教員をサポートする立場の人が必要だと思います
- ・教育予算の充実
- ・教員の増員、雨漏りの修繕、教員の自主的研修のための時間の確保
- ・教職員も休みをきちんと取る
- ・教職員を増やす。
- ・教員数の増加
- ・教職員の働き方の改革
- ・勤務時間内で授業の準備ができるようにすること。教育職員が日々定時に退勤できるようにすること。
- ・教職員の増員
- ・保護者との対応に先生方が疲弊してしまわないように、対保護者は別の機関に依頼して子供に全力で向き合える環境作りが大切だと思います。先生方の意欲が一部の保護者によってそがれてしまうのが勿体ないと思います。

- ・今泉小学校に在籍しています。児童からの暴言等で授業を中断し、待機している児童も疲弊します。どうか、担任 1 人で対応出来ない児童がいるクラスには他の先生がフォローに入って欲しい。
- ・教職員の人員配置を増やす
- ・教員の業務の分散
- ・教職員の人数を増やす
- ・教員の給与、労働環境の改善
- ・少人数クラス制
- ・学校業務に携わる人間の確保。教育は教員、事務は事務員、学校運営は運営専門(授業を持たない教員経験者など)、安全確保は専門の警備員、など。
- ・学校業務を担う人員の確保。教育は教員、事務は事務員
- ・先生達がゆとりを持って働けるようになること。
- ・教職員のゆとり。ハードワークを減らす。
- ・教職員の賃金アップ。医療福祉と同様に、教育もエッセンシャルワーカーであるにもかかわらず、待遇の悪さが問題視されていると思う。いい加減、やりがいにも頼るのではなく、相応の賃金アップを図るべき。
- ・教職員の賃上げ
- ・教職員が公私ともに充実し、しっかり休む時間を確保することでより職務に邁進できるような環境作り。先生方にこれ以上求めることに気が引いてしまい相談や協力を求めることがしにくい状況がある。
- ・人が足りないのであれば人材増員
- ・(質の高い)教員の数が増えていること
- ・教職員の待遇向上
- ・教員の人数を増やす。定数改正。
- ・担任の負担を減らす。宿題の添削や書類関係の補佐的役割を担う副担任を各クラス配置する。
- ・少人数クラスの実現、サポーター増員
- ・補佐的な人員を増やし教員の負担を減らす。1 クラスの人数を減らす。
- ・教職員数の確保、その上での少人数教育
- ・教職員もですが、トップに立つ方の資質向上。改革を率先し、教職員の方々の意見も受け入れ、全体的に考えられること。
- ・教職員の待遇の向上と人手不足の解消
- ・教員を増やすなどして、先生の負担を減らすことで教職員の質の向上に繋がると思います
- ・教員の増員(教員選択制授業)
- ・教職員の人数増員
- ・教職員を助ける補助スタッフの充実
- ・先生方の心の余裕
- ・教職員の方の心の余裕
- ・教職員の待遇改善があつての資質向上
- ・学級の副担任制の導入、学級の最大人数を 25 人に。教員を増やして手厚く目の行き届く環境作りを。
- ・教職員の数を増やし、生徒 1 人に対して細やかに教育すること
- ・質の向上のためにも量の確保が優先。先生 1 人の負担をこれ以上増やしてはいけない
- ・教育現場の余裕
- ・教師の人数増加
- ・教職員不足の解消
- ・教職員の給料のアップ
- ・教員の働き方改革、教職員の増員
- ・教職員の待遇の向上
- ・1 クラスあたりの教員補助の増員
- ・教員の待遇改善。手当を充実させ、よい人材が「教員になりたい」と思わせる職業に。
- ・教職員に負担のない環境(これが結果的に教職員の資質の向上に繋がると考えられる)
- ・指導力
- ・人員の確保
- ・教職員、教職員以外のスタッフ多方面からサポート出来る人材の増強、教職員のサポートも含む
- ・教員一人当たりの児童数の減少
- ・多様、多彩な教職員の人材の確保
- ・教職員の激務を減らすこと
- ・教職員のメンタルの安定=教育へのスキルが上がるのでは？
- ・雑用を教職員にやらせない→その結果教員が空いた時間を授業準備に充てられる。
- ・産休や育休明けの先生を担当にする場合は副担任をつけ、休みがちな担任をフォローし子供たちへの学習を滞るのを防ぐ。
- ・先生方の今現状から求めると、負担が増えるばかりで、真の向上ではなくなると思います。先生方の働き方が改善された上で、上記のことが実施されると、子供達にも良い影響が出てくると思います。
- ・教職員の人数を増やす
- ・教職員が子どもの教育に専念できる環境づくり。雑用のアウトソーシングを可能にする予算の確保。多様な子どもたちに対応できるように、少人数クラスの実施や複数担任でのクラス運営の実施

- ・教職員の待遇の改善
- ・教職員の待遇の改善。賃上げ、公休
- ・教員の犯罪発生が無いことは勿論。他人の子供ではなく我が子を預かるくらいの気持ちで対応頂きたい。そのためには、生徒数に対応できる教員の増員配置も必要だと思う。少子化が加速する中、家計の違いによる教育環境の違いを埋め、フォローできるのは教員等のスタッフだと思います。
- ・教職員の負担軽減、英語習得
- ・教職員の働く環境の向上
- ・質の高い教職員の補充
- ・教員の指導力だと思います
- ・教職員の働き方の支援
- ・どう見ても教員に向いていない人が教員にならないための試験
- ・先生が驚くほど悪い言葉遣いを使っていることがあり、不安になった。生徒がいつもみているという自覚を持ってほしい。また、感情をコントロールできず、生徒に怒ったりする様子があった。先生へのアンガーマネジメントやコーチング、傾聴などの研修をしたほうがよいのではないかと感じた。
- ・教職員の心の質
- ・三役の質が悪いが故に職員の質も悪い
- ・教職員の職場環境の向上
- ・教職員が幸せであること
- ・子供の通っている学校の先生の口が悪い。子供に「しばらくぞ」と発言している。
- ・職員の研修制度や他の市や県などの視察

② 教育内容・指導方法の改善

- ・近年どんどん良くなってきてはいるけれど、やはり個々にあった能力にあった教育ができてない。あくまでも平均点にそろえるような学習は辞めて頂きたい。日本で天才が現れない理由は特定の教科を向上させないような教育体制を変えて頂きたい。どんどん特化できる教科は子供にやらせてあげてほしい。上尾市として他にない教育をやれば人口増加移住者の増加に繋がります市全体の活性化に繋がると思います。
- ・性に関する指導の充実
- ・教職員によって差がありすぎる。生徒は選べないので一定にすべき
- ・塾に通わずとも習得させる授業内容。塾に頼りすぎですね。

- ・子供たちを信じて任せる力。守りすぎないでチャレンジ出来る環境。先生も子供たちと共に学びを楽しむ姿勢。教えるというスタンスでは無く共に学ぶスタンス。
- ・専門教育
- ・生徒自らが考えて行動出来る環境作り
- ・上尾市内で、通学する中学を生徒が選べるようにしてほしい
- ・塾に頼りすぎ。学習面での教職員質向上、学校教育の見直し。
- ・四角四面な対応ではない、個を活かした柔軟な対応
- ・主体的に学べる授業の充実
- ・教職員の方々の子どもへの適切な接し方（威圧したり、大きな声で怒鳴ったりせずとも成り立つ関係性作り）、担任だけに任せず多数の目で授業や子どもを見守れる体制作り
- ・市内統一した指導案、教材等を活用する。
- ・物事の善悪を毅然と対応、何かあったら被害者を隔離するのではなく加害者を厳しく罰する。授業の邪魔をする者に対して毅然と対応
- ・自習室の開設
- ・教科担任制を取り入れる
- ・教育のアウトソーシング
- ・高校の定員割れ全員入学可は、勉強の意欲を低下させている。やめたほうがいい。
- ・社会で起きている問題について考える授業の展開など
- ・部活動を地域移行にしない。教員が見るのではなく、指導者を学校におく。そこに税金を使う。
- ・ボランティア、シルバー、大学生、高校生など先生として交流を継続させる
- ・得意を埋もれさせないための、授業ごとにクラス分け
- ・体験型教育の充実、各科目の横断的視点
- ・子どもたちに何を学ばせたいのか経験させたいのか、本来の目的を考えた指導ができる学校運営
- ・一貫した教育
- ・楽しいな休み時間を沢山確保してほしい。学校が楽しみで通学している子が現状いません。
- ・勉強時間の確保
- ・科目ごとのレベル分けを行い、苦手科目は丁寧に、得意科目はどんどん学べる環境
- ・公立学校も入学時に多様な選択肢(学校)が増えると思う
- ・教職員の考え方や方向性の一致。
- ・進度別授業

- ・先生方が創意工夫をしようとすることは、こちらから言わなくても常に考え行っていると思います。あとは、授業内容を特色のあるものにしたい場合は、理科の授業や社会、家庭科でも道具が揃っていないと特殊な事も出来ないと思います。学校施設や先生方が思い描いていることを実現してあげることが、より良い学校教育が出来ると思います。
- ・中学に関しては、指導に問題のある教師に対し、教頭先生がしっかり指導して高い学力を目指してほしい。
- ・教員の仕事内容の精選。上記の教育内容をすべて完璧にできるような人間はいません。限界を超えたものを要求しています。
- ・質の高い教師のみを高給与で雇う
- ・子ども達の意見の参画。
- ・学校教育自体が時代にあっていないと感じています。時代と共に変化していったほしい。
- ・挨拶や人としてのマナーなど基本的な学びも大切だと思う
- ・質は昔より十分高いと思います
- ・教職員は、個人の意見を持ち柔軟な考え方で生徒と向き合える人材であること。
- ・いじめを行った者への罰則。韓国のように進学時に減点する。
- ・中間期末などで先生方の手作りのテストを廃止し埼玉県一律のテストに変えてほしいです。先生ごとにレベルが違い過ぎるし、先生方の負担も減らせると思います
- ・ゆとりある時間割
- ・1クラスあたりの生徒数の削減
- ・細かいルールがありすぎて、息苦しそうだと感じる。
- ・充実した学校行事
- ・子どもたちの学業のレベルや興味に合わせた組分け。学校ごとに特色を持たせるのであれば小中から学校は選べるようにするのが公平だと思う。
- ・専門的な指導、地域社会との連携
- ・良い教員に恵まれたときの子どもの成長は驚きます。
- ・学校に通いたいと思うよう学力だけでなく楽しい場所をつくること
- ・学力や特性等によるクラス分け
- ・前時代的な教育方法(パワハラ、脅し、体罰)を捨て、今の時代にあった教育を全教員に周知徹底すること
- ・評価を無くす
- ・色々な経験が出来るのが大事かと思います。習い事が出来ない子もいるのでクラブとは別に体験〇〇とみんなが平等に体験学習が出来たらいいと思います。

- ・令和の教育を教育だけでなく市議会でも話し合い共有することが大切。学校や幼稚園。保育園の職員に丸投げしない!

- ・教職員が他文化の生徒に時間を割かない事
- ・教職員による個々の教育方針の意識合わせ。
- ・自己肯定の充実
- ・各地区同レベルでの教育
- ・日本全国のあらゆる教育環境を見習う為、上尾市自体が、他県他市の状況を調べる部署を作るべき。上尾市は、遅れている。
- ・職員間での情報公開と共有
- ・個性教育学の取り組み
- ・言葉遣い、基本的なルール
- ・学校の選択制

③ 学校環境・設備・安全対策

- ・タブレット端末のためのネットワーク環境強化
- ・他施設での屋内プール指導
- ・校舎の防犯対策
- ・通学路の安全面、警備員など設置して欲しい
- ・学校設備が古すぎる、夏心配。その時点で質がかなり低い。学べる場所を確保できているのか疑問。
- ・刺股は全く意味をなさない。警備員の配置、校門の施錠
- ・子供を守るための防犯システムの整備、更新
- ・スクールバスの導入
- ・先生方の休養する時間
- ・少人数教室
- ・エアコンあるのに付けないのに疑問。適切な室温の推進
- ・トイレを綺麗に。美味しい給食を。
- ・原小のトイレ男女離れているのが使いづらい。教室の位置によってはトイレが遠くて、体質的にトイレに近い子が困る。

④ 保護者・地域との連携・協力

- ・家庭の協力
- ・保護者の理解、学校にすべてを求めないこと
- ・保護者への指導
- ・保護者や地域住民による金銭以外の協力
- ・トラブルの原因となる児童の家庭環境の改善
- ・家庭との連携による相互の働きかけ
- ・教職員の待遇向上と保護者との連携の向上の両立
- ・教師と生徒児童の信頼関係
- ・生徒と教師と保護者及び学校と地域の情報交換
- ・学校活動や指導取り組み等の具体的な内容を家庭と共有する事

・保護者がその学校での子ども達の学力レベルや体力レベル等を把握でき、向上の為に学校が何を、どのように改善しようとしているのかを知れるようにすること。また、その為に家庭でもどうして欲しいのかも示す。また自分の子どもの状況(学力など)を把握し、特に落ちこぼれないように対応することが必要だと思う。

・教員が安心して生徒指導に臨める環境とその環境を作るための各家庭の理解
・保護者への教育
・保護者、地域との共通理解と協力
・地域、保護者への啓蒙。外部の専門家の講演会などを開いて欲しい。

・親や地域の協力
・家庭と学校の連携

⑤ 広範な改善要望

・学校外の機関(教育委員会等)の資質向上
・言語聴覚士や作業療法士が学校教育に携わること
・質の高い学校教育と評判の市町村の教育体制を参考に、よさそうな内容が取り入れられるような情報収集。個々の力にまかせない体制を希望します。
・学区編成見直しによる登下校時間の短縮
・地産地消で国産の美味しい給食を食べさせてあげてほしい。

・学生参加のボランティア
・財務省を解体して、文部省に予算が通常言われる先進国並みに留学生以外に配られること。
・警察や児相との適切な連携
・施策を実施するための国の施策
・法律の改定
・生徒同士のトラブルが起きた時に対応してくれる場所や相談先の充実。

・職員と児童の関わりを深くする
・掃除を専門業者に!
・職員・生徒ともに承認
・評価を無くす
・コミュニティ・スクールの見直し
・図書館の蔵書をさらに充実させる
・民間の人材や資源の活用

問7	家庭・地域の教育力を向上させるためには、何が大切ですか。
----	------------------------------

① 家庭・地域との連携

・外部に対して学校の状況が伝わりにくいというのが大きいかもしれません。子供が卒業してしまうと学校から離れてしまうというのも一つ原因のように思います。できるだけ卒業した子供やその保護者が学校に愛着を持って地域のコミュニティの中心となるような方向に持って行けたらよいなと思っています

・ネグレクト等の早期発見で子供達の心の育成を見逃さない為に家庭訪問の実施

・週3日の家庭教育支援員＝市P連事務局員ではなく、本務者としての「家庭教育専任者」を配置すること。

・学校と家庭との連携、子どもの課題を共に考えられる体制づくり

・休日に家庭や地域が連携して勉強以外の体験を充実させる。

・地域の大人との触れ合い、話を聞いたり、手伝いをして年代を超えて何か(行事)をする

・学校、家庭、地域の情報共有

・地域のお店や工場の見学や体験する機会が欲しい。親も上尾市の魅力がわからないのに、魅力を作文で表現するのは難しいです。

・忙しい大人が多いですが、それでも、少しでも関われるものを増やし(学校・地域)、それを明示し(情報が得やすいことは大事!）、少しでも多くの大人が子どもに関わる・関心を持つことが必要だと思う。自分事に落とし込む。また、子どももそれを通じて様々な大人がいることを知り、将来のビジョンに繋がる可能性もあると思う。

・教員が学校以外の時間で、もっと地域住民として地域の活動に参加した方が良い。近所に市内勤務の小学校主幹教諭が居るが挨拶もしなければ地域活動に1度も参加した事がない。

・子どものあるなしに関わらず地域の子どもたちと関わりを作る仕組み

・地域で大人同士が交流し、教育リテラシーの高い大人の在り方を知る。大人が家や地域にいる時間的余裕を持ち、子どもと一緒に遊んだり、学んだりする時間を増やす。

・家庭とPTAは、子育ては勿論、生活のために仕事を持っており、親ではない第三者の関わりが現代少なくなっていると思うので、PTA以外の貧富に差を生まない公共機関的な非営利団体の協力が必要だと思います。

・地域住民個々の意識向上

② 子育て支援(家庭への支援)

- ・保護者への子育て教室の開催
- ・親の考え方
- ・親や地域住民が子どもたちとゆったり関われる経済的かつ時間的ゆとり
- ・親が学校に丸投げしないこと。
- ・共働き家庭の時間的ゆとり
- ・共働き家庭への支援
- ・舐め含み「家庭教育」とは何か、何の為に行うか、に対する保護者の理解と実践。
- ・児童手当の金額増加、子どもとの時間を増やすため
- ・保護者に向けた公演や定期的なお便りて、家庭教育を底上げする
- ・保護者が早く帰宅できること
- ・家庭及び地域教育への指導助言や研修等
- ・親への教育の教育機会
- ・親の意識改善。勉強会など
- ・共働き世帯で家庭での教育には限界があり何を重点的にやるべきか教えてほしい。
- ・親の教育
- ・地域、保護者のボランティアは重要。しかしまずは子どもの最も大切な家庭の安心感が大切。家庭教育、家庭の安定に行政も積極的に行動を施策する必要があると感じる。
- ・各家庭での教育
- ・その前にやることがあるのでは…と思う。家庭環境、安心、安らぎ、心の充実、満たされれば、意欲も湧き全体的に向上していく
- ・ダメなものはダメと家で教育すべきですとんでもない子供が多すぎるいじめや暴力と気づいていない子供が多すぎる
- ・家庭での負担軽減（PTA やゼッケン付け等）
- ・母が家庭で子供と向き合える時間を確保できる環境を整える
- ・親の精神的受け止め場所の拡充
- ・子育てに困難さを抱えている家庭への金銭や制度上の支援
- ・保護者への教育講演会などの催しの充実
- ・子育ての仕方をもっと教育として親にすべき
- ・承認
- ・親のゆとり
- ・保護者等への相談の充実
- ・親の手助けとなるサポート体制
- ・子育て世代への金銭的支援
- ・保護者の支援

- ・共働きを前提とした制度設定
- ・親のレベル向上が必要。親の勉強経験が少ないと、子供にも勉強する価値を伝えられない。
- ・安心、意欲的に取り組める環境。参観、授業公開の充実性。
- ・親が叱ること。本来、しかるべき親が叱らず、教師が叱るとえらい問題になってしまう現状に問題があると考えてる。
- ・上尾市以外はどういう取り組みをしているかなど、保護者が教育力を伸ばす努力をする
- ・貧困対策
- ・オンライン相談室開設。子供から大人まで気軽に相談できるような環境が大事だと思われます。
- ・30,40年前に比べて共働き家族が増えているのに宿題を増やさないでほしい。これ以上家族の時間をひっ迫しないでほしい。
- ・適切な宿題等
- ・まずは子育てしやすい環境を自治体や国が整えることが必要。

③ 学習環境・機会の充実

- ・放課後は塾や習い事の家庭が近年多いと思います。それ以外の塾や習い事のないご家庭のお子さん達のための放課後に学べる活動クラブとかを作ってあげてもいいのかなと
- ・長期休暇を利用した学習教室があればいいと思う。子供の居場所の確保や防犯にも繋がる。
- ・コミュニティスペースのある場所の自習室解放(多少有料でもよい)
- ・学童における習い事の実施または送迎サービス
- ・塾、習い事の支援金制度
- ・図書館、自習室の増設
- ・自習スペースなど自宅以外での学習の場の充実
- ・塾代、地域クラブ参加費の補助
- ・日本は幼児で英語教育をしても小学生でそれを維持することが難しいことがよく言われます。お金がかかりますし、施設も限られています。英語の取り組みが上尾市でも一年生からされていますが、全く足りていないと思います。
- ・個人の苦手な内容、覚えるスパンを AI に記憶させ、個人に合わせたオリジナルの宿題をさせる。
- ・放課後や夏季休暇の自習室提供(教室開放)
- ・地域の歴史や民俗を体系的に学ぶことのできる施設の整備。
- ・もっと人間力を磨く場所があったほうがよい
- ・毎日、学習する習慣、学ぶ姿勢

- ・どんな家庭でも放課後学べる場を作る
- ・放課後等に安全に勉強できる場所
- ・誰もが学びたい時に学べる場がある事
- ・安全に自習できる場所の設置
- ・ラーケーションの充実
- ・一人一人の得意不得意、特に不得意を見逃さない体制
- ・共働きて親が子供に関わる時間が不足している。両親が働いていても参加できる低価格のスクールが
- ・まち探検のような地域との交流の場を増やす
- ・習い事等への支援、送り迎えの代行など
- ・中学との連携や放課後教室などでの学びや体験
- ・謎解きイベントの開催
- ・オンライン授業を特別な配慮とはせず、通常の事として扱う。
- ・過度な多様性を排し、守るべきルールを明確に提示する必要があると思う
- ・市内の民間の指導塾との情報交換など。良い方向にライバル意識を活用して頂きたい
- ・面倒なく、誰もが参加できる体制。

④ PTA・学校応援団のあり方

- ・コミュニティ・スクールは意味ない。だから何？状態です。学校応援団は、親父の会とか？親父の会も、極端でやっている親父達だけが盛り上がっていて、見ていて盛り下がる。親父の会は、学校の先生と密になって自分達のやりたい事をやっているイメージ。役員やっていた母達は、やる事が決まっていて、自分たちでやりたい事を考えたりできなかった。
- ・PTA 廃止
- ・ICT を使った情報提供。PTA 廃止。
- ・PTA の委員会や本部も経験しましたが、PTA にも地域のボランティアの方々にも、ボランティア以上の負担や強制感が強く、このままの体制を続けていくことは難しいと感じました。PTA 会員からは業務委託を検討したり、ボランティアとしてではなく仕事として依頼するなどを望む声もあった為、PTA 活動にしても地域の方々のボランティア活動にしても、時代に合わせた上尾市としての支援策を見直していくべきだと思います。
- ・PTA は不要だけど廃止する気力も体力も能力もない。各家庭で共働きが増えたり経済的にも昔ほど余裕がないので学校とは切り離して考えるべき。
- ・PTAの廃止
- ・PTA のない学校が増えている中、活動支援というのは難しい。

- ・PTA の有償化もしくは廃止
- ・学校応援団は形だけのものではない事を期待します
- ・PTA の在り方と今後の課題
- ・学校応援団、コミュニティ・スクール、PTA 等の大枠は地域の中にあるさまざまな事情があり動ける人は限られているのでその中で何ができるのかを考えて行かなければ行けないと思う。
- ・PTA をバイト制にして参加者を増やす
- ・地域の教育力は随分前から崩壊していると思います。地域や PTA などで集まりがあっても皆顔色を伺うばかりで意見が出せずに時間ばかりが過ぎていくのが日常です。集まりをなくしこうした顔を合わせずに意見できる場所を増やす方が有意義かと思います。

⑤ その他

- ・自分の子供の頃を思い出して下さい。子供は社会の縮図です。立場の格差が大人の世界にある限り、イジメは無くなりませんし、自殺する子供も減りません。表面的なごまかしは、悪化させる余計な一手間です。
- ・地域の連携は必要ない。なかなか難しいと思います。
- ・今のご時世は親が関与してきて教員の負担になりかねないので、大事ではあるが今は向上しない方が良いと思う
- ・教育委員会の柔軟な対応力
- ・教職員の資質向上
- ・指導力向上のためのセミナーや研修会の実施、支援や相談窓口
- ・行政ではなく専門家（教育系の会社、組織）の参入
- ・家庭、地域の教育力とは何を指すのかわかりません
- ・情報発信とその共有
- ・この中にはない。

問8	生涯にわたる学びを推進するためには何が大切ですか。
----	---------------------------

① 生涯学習施設の拡充・改善

- ・各地域の公民館で年齢関係無く気軽に参加できる放課後の場所などの設置。昔の遊びから今の遊びを体験したり学んだりできる場所があれば良いと思われます。
 - ・学校が地域の教育力をあげる場として使われるとよいなと思います。色々と制約があるとは思いますが、図書室を入学前の子供や保護者が利用できたり地域交流の場として利用されるとよいのかなと思います
 - ・近くにアッピールランドがあるがおもちゃの少なさに驚いた。子ども達がたくさん遊べるように改善したほうが良い。
 - ・公民館の拡充。市立図書館と大学図書館との連携。生涯教育について市民が立案できる環境の整備。
 - ・地域の歴史や民俗を学ぶことのできる社会教育施設として博物館の建設。
 - ・上平地区に建設予定だった図書館の建設再開を希望します
 - ・学習や談話が自由にできるスペースを図書館に設ける。
 - ・尾山台図書館とか小さすぎる。近くにスポーツができる大きな公園もない。
 - ・自習室とかそのような場所がないので、友達とか分からないところを話しながら学習ができない。(図書館は話せないから、個人で勉強しかできない)。色んなジャンルで、指導者を欲しているので派遣みたいに、地域で登録して指導者やボランティアを色んな所に派遣できるようなシステムがあると良いと思う。無償だと登録も少なそうだけど、派遣代金とかを値段低く設定して運営できれば需要は、ある気がする。市でそのような発信ができれば信頼性も高いし、地域は助かると思う。
 - ・公共施設に自習スペースを設ける
 - ・我が家は図書館をよく利用しますがいつ行ってもガラんと空いていて特に小中学生の利用は見たことがありません。図書のデジタル化の促進、各学校に普及、最新の漫画を揃える、など子どもたちが利用したくなるような図書館や地域施設に改善してほしいと思います
 - ・さいたま市や桶川市の様に、図書館に企業を入れて欲しい。
 - ・学習支援室を丸広図書館に設置してほしい
 - ・上尾市中心部以外のサービスの充実
- #### ② 学習内容・機会の充実
- ・学ぶ楽しさを感じる事、
 - ・読書の習慣

- ・図書館での新書を増やして欲しい
 - ・小中学校での学ぶ楽しさの体験
 - ・年配の方から、子供のいる家庭まで色々な年齢の対象の企画があるとよい。
 - ・学ぶ事が楽しい!と子供たちが思える事、大人が学ぶ事が楽しい!と背中ではせる事。
 - ・勉強を楽しいと思えるような授業、先生の関わり
 - ・林間学校、自然との触れ合い学習、田植え体験、登山など
 - ・東京近郊という地の利を活かし、大学を積極的に誘致する。誘致した大学との連携。
 - ・県内外、国外の交換留学
 - ・勉強会の開催・参加
 - ・学校内での取り組みとして外部に出かけ学ぶ場を作ること
 - ・お金の教育(NISA や株、保険の知識)
 - ・政治について楽しく学ぶ
 - ・子供が、今後も続けて学びたい・向上したいと思うような学校での活動
 - ・学習が楽しかった思い出
 - ・個性を活かした教育
 - ・興味を持った時に学べる機会を見逃さずに、提供される環境を整える
 - ・生涯学習の状況、実績を子ども達に伝える(体験させる)環境
 - ・学校教育で自ら考えて行動する力を育むことが生涯学習につながる。
 - ・生涯を考える道徳の様な授業
 - ・本を読む習慣をつける。
 - ・サークルや市民活動など、学びのコミュニティを支援する
 - ・幅広い分野への体験学習
 - ・興味や知る機会を設ける事
 - ・学び
 - ・海外交流(欧米)
- #### ③ 経済的側面・環境整備
- ・潤沢に家庭にお金が回ることが大切です。学力と貧富の差の相関性を調べてみてください。
 - ・労働時間の短縮
 - ・時間と資金を得られるために、ちゃんとインフレするように、国債を発行すること。インフレは物価上昇ではなく、需要拡大。年金で暮らせない老人に、同じことを聞けますか? いかにも虚しい質問をしているか、まずそこに疑問を持たなくては始まりません。

- ・国、自治体、個人の経済力
- ・学習に関わる助成金の充実
- ・気兼ねなく参加できる雰囲気作り。低価格。ワンコイン等。
- ・経済を含め生涯学習が出来る家庭環境の支援
- ・学びやすい環境や金銭的支援
- ・時間、金銭のゆとり
- ・情報発信と金銭的援助

④ 人間関係・意識・コミュニケーション

- ・大人たちが自立する事
- ・ライフワークバランスの指導
- ・個々の意識向上
- ・問 2,3,4 の豊かな心、健やかな体、自立する力の育成が達成出来なければ、生涯学習の施設、行事を増やしても一部の利用に終わる。
- ・学校外の人間関係を作る
- ・時間の余裕と目標の設定
- ・本人のやる気
- ・家庭が基本だが社会の大人全てが、もっと子どもの居場所(公園で自転車やボール O.K.等)を作り子どもに寛容になってあげる事。
- ・生涯にわたる学びをしたいかどうかは個人の自由なので、何かやりたいと思った時に相談できる窓口などがあればいいと思う
- ・自分の学びを深めるための、時間確保。
- ・生徒と教師と保護者のコミュニケーション
- ・コミュニケーション能力を育てる機会
- ・承認
- ・ワーク・ライフバランス
- ・親や教師から生涯学習の大切さを教える事ではないでしょうか。
- ・学習意欲の継続

⑤ その他

- ・義務教育の範囲では無理だと思うので、基礎学力の向上に邁進してほしい
- ・教育長の民間人登用
- ・学べる場の情報発信、統括
- ・全て

問9	文化芸術の振興を推進させるためには何が大切ですか。
----	---------------------------

① 施設・場所の整備・充実

- ・歴史資料館をつくり身近なものと感じられるようにする
- ・予算
- ・立体的なアートや遊びながら楽しめる現代的な美術館など
- ・補助金、文化芸能を披露する場所
- ・美術館や博物館などの充実
- ・市立博物館・美術館・文書館の新設について市民と教育行政による連続ワークショップを開催すること。
- ・地域の文化財を保存・活用することのできる施設の整備。学芸員等の専門的人材の育成・活用。
- ・授業の一環で子どもたちの芸術鑑賞会。大きなホールがあるので活用できたらよいのではないかと思います。
- ・公民館で出来るような質素なものでも構わない。身近にふれあえる方が金銭的にも助かる。
- ・美術館設立、映画館誘致
- ・文化会館、美術館の改修予算確保
- ・音楽(演劇)ホールなどの整備、活用
- ・博物館へのこどもの入館歓迎体制の整備
- ・上尾市中心部以外のサービスの充実
- ・博物館、美術館の体験イベントの活用。
- ・上尾市に美術館がない。作らないと、芸術面は向上しないと思う。
- ・歴史資料館の設営
- ・市営美術館、商業施設での一部常設展示。学校等の一部空間にも美術、博物館的な展示と土日に一般利用の運用など。
- ・資料の展示と活用

② 体験・鑑賞機会の創出と充実

- ・教育の一環としてかつては小中学校などでも芸術鑑賞会などが行われていたと思いますがこういった活動は真っ先に切られているように感じています。ただしこういった活動は生涯学習と相性が良いように感じます。学校を舞台に地域と連携してこういった文化芸術の振興が広まるとよいなと思います
- ・演劇、演奏会などの鑑賞
- ・アウトリーチ活動等、体験機会の充実
- ・体験させること
- ・体験活動の充実
- ・これらに興味を持たせるきっかけ作りとなるイベントの創設

- ・上記を子どもたちに身近に感じてもらう工夫
- ・興味がない方にも提案できる場、授業内で学べる移動型の展示など
- ・学校での芸術鑑賞会
- ・小・中学校の授業内においての文化芸術観賞会の実施
- ・課外授業。美術館など。
- ・体験する場を増やす(校内外、市内等)
- ・芸術を身近に感じるために、演劇鑑賞、音楽鑑賞などの機会を設ける
- ・子供達が文化芸術に触れる機会
- ・学校内での音楽会等の行事
- ・子供が鑑賞できる舞台の充実。特に未就学児も連れて行けるような舞台があればどんどん見せてあげたいです。
- ・市や様々な団体のイベントへの積極的参加、イベントも極力安く、周知もしっかり
- ・学校行事で伝統文化を見学できる機会を増やす。
- ・体験機会の増加、アクセスのしやすさ。
- ・子どもが文化芸術に触れる機会を増やす
- ・幼児や小学生でも観覧できるような音楽会があることを知ってもらうこと、美術館に行っても静かにしていないといけないので子供は退屈です。日本はそういった場所から子供が排除される堅苦しさがあります。子供も楽しめるような美術展などの企画があると面白いと思います。
- ・体験
- ・博物館、美術館の体験イベントの活用。
- ・遠足で美術館に行くことも文化祭すらないのでそこからかと思っています。
- ・文化芸術に触れる、話を聞く機会を重ねる
- ・近郊市の博物館美術館見学
- ・幼い頃から文化に触れ合い体験する機会。時間、金銭のゆとり
- ・文化芸術を身近に感じられるイベント
- ・文化芸術に触れる機会を増やすこと
- ・文化芸能の講演を学校でもらえるようお願いする。もしくは社会化学習として市民センターなどで鑑賞する機会を作る。
- ・身近に文化、芸術に触れる機会を増やす。
- ・歴史や文化に直接触れて知ることができる機会
- ・市民のリテラシーを向上させるために無料の文化イベントを増やす。自治会館やお祭りなど、近所で文化的なパフォーマンスを見やすくする。
- ・良いものを観る
- ・運動公園で其々のイベントを実施

- ・現代の文化芸術の情報収集、イベント
- ・コロナになってから、音楽や絵画などをする人が減少しているので、充実してほしい。
- ・文化芸術に常に触れる事ができる環境作り
- ・芸術賞などのコンクールへなどへの積極的なプロモーションと生徒の参加
- ・地域への開放。

③ 教育・人材育成

- ・学童期からの芸術教育、金管鼓笛など芸術活動に参加し親しむ機会の創設や保護
- ・今の小学校の図工の授業は面白くない。現代アートを意識しているのか、自由な発想をと考えているのかもしれないが、あれでは、絵が上手にはならないし、美術を楽しいとは思えるようにはならないと思う。
- ・より専門性の高い人物に教育してもらう
- ・文化を学んだ後にそれを活かせる環境と学んだ証(資格やコンテストなど)
- ・学校の生徒の長年にわたる継承。〇〇音頭を踊る!お囃子を学校で!など。
- ・芸術監督を任用する。
- ・後継人の育成

④ 認識・意識の向上

- ・歪められた歴史認識の排除
- ・公募の出来レースをしないこと。変なものが当選しなければ、出来レース当選者以外、誰もやる気にならない。文化は皆が産むべきもので、お上がステレオするなら、中国のように粗悪な発想しかしなくなっていく。
- ・色々な方に興味を持ってもらうこと
- ・まずは情報発信
- ・日頃から芸術に触れること
- ・市のカルタ。県のカルタを異年齢授業で取り入れる、等の工夫
- ・良さを伝える活動
- ・文化財、歴史資料の展示等による社会への周知、それらに対する関心の向上
- ・文化芸術へ触れる機会や豊かな感受性
- ・承認
- ・それらを積極的に伝え続けること
- ・まずは知ること
- ・推進者(理解者)の選任
- ・興味を持つきっかけを作る
- ・上尾市は文化活動推進お願いします。

⑤ 経済的・時間的ゆとり

- ・文化芸術にける金銭的時間的ゆとり
- ・経済力
- ・市民生活のゆとりを作る
- ・心の豊かさ

⑥ その他

- ・上尾市になくてもよい。そこに税金をかけないでほしい
- ・部活動の維持
- ・海外交流(全世界)

問10	健康で活力に満ちたスポーツ活動を推進させるためには何が大切ですか。
-----	-----------------------------------

① スポーツ施設の整備・拡充に関する意見

- ・スポーツをする施設を増やす(野球やサッカーなど広い場所が必要なスポーツは場所がない)
- ・無料でスポーツができる施設の増設
- ・気兼ねなく子供が行くことができて外遊びできる場所
- ・バスケットボールが気軽にできる場所がない。上平公園のゴールネットがなく、コートがテニスと共有なので使えない
- ・公園の整備(雑草、健康器具、遊具)まずは身近なところで体を動かせる工夫が必要
- ・運動できる公共施設等の確保
- ・ワクワクランド、早く修復してほしいです。
- ・プール設備の充実(学校授業だけでは少ない)
- ・上尾市内に市営プールを設立する
- ・原市や尾山台近くに大きなスポーツができる公園がない、
- ・武道館を使用したくても抽選にあたらぬ。活動する場、施設がもっと充実して欲しい
- ・公園の拡充。ボール遊び、スケボーの解禁、老人の意見の排除。
- ・市民、県民プールの再建設
- ・運動のできる公園(特にボール使用可能な)の整備
- ・今ある公園をボール遊びのできる公園に改善してほしいです!!!
- ・使いやすい体育館の充実
- ・上尾には市民プールが少なく遠くて行けない為増やして欲しい。
- ・貸しスタジオを増やして欲しい
- ・屋内プール時間をもっと作る。
- ・上尾市の市民プールを復活させてください。温水プールも早期に修復してください。

・公園の拡大と整備

- ・ボール遊びができる公園を増やす。公民館などで市が頻繁にスポーツ教室を主催する。体操など自宅でする運動の動画を公開する
- ・水上公園跡地を、障害者交流センターのように多様な人が集える場にして欲しい。障害者の雇用も推進してほしい。
- ・スポーツ施設の無料化、子どもがボール遊びできる場所、働きかた改革

② スポーツ活動・教育のあり方に関する意見

- ・中学校・高校の部活動がどうしても進路をにらんでの勝利至上主義な活動になりがちで(保護者も望んでしまう)それが生涯スポーツへの意欲低下を招いているのではと感じています。部活動の外部委託も始まっているようですがもっと気楽に楽しみながらプレーするスポーツ団体が受け皿になるとスポーツ人口そのものが増えるのではと思っています。各団体にとってはそのスポーツを始めてくれる子供たちが増えることは有益だと思いますのでそういった活動ができるとよいなと思います
- ・幼児の時から運動や体操をする。
- ・ニュースポーツの更なる普及および市民の選択肢を増やすこと。
- ・スポーツと言うが先ずは小さい頃から体を動かす事が楽しくなるような環境作り、と友達と体を動かす場所の確保。今特に中高生が遊べる場所が無いと思う。特に中学年は今後部活も無くなって行ってしまう中でこのままでは皆が家に引きこもりゲームやスマホで過ごす様な環境しか無い。
- ・体育の授業のあり方を変えること。運動が苦手な子も、体を動かすことが嫌いにならないような、体育が苦手な人間の視野をもった体育教員の育成。
- ・部活の外部委託は、活動内容は充実すると思うが、対象になる子供を絞ることになってしまうと思っている。
- ・学童の子も参加可能な放課後スポーツ体験の実施等
- ・運動が苦手な子どもでも楽しめる授業
- ・スポーツが苦手な人に無理にさせてほしくはない
- ・朝運動を年間通しておこなうのはどうですか。スポーツを通して学べる事が多くあると思っている。コロナ禍があり、運動会は縮小され、子どもたちの気持ちが一致団結するような機会が減ったように感じる。旗当番などで見かける子どもたちの表情は青白く元気がない。外気を浴びることで食欲も増すでしょう。仲間との繋がりから情緒も安定してくるのではないのでしょうか。

・大谷翔平さんが、各学校にグローブをプレゼントしてくれましたが、未だに1つ未使用で展示してる若しくはクラブ活動一部の子供だけが使っていると聞いてます。大谷翔平さんの想いや活動が無駄になっていませんか？飾るとかもってのほかです。なのに、上記項目のような理想項目を記載されても全く響きません。せっかくのスポーツを、野球をする機会、興味のきっかけを全国レベルでやってくださったのに、生かしてないかなと感じています。それが出来てないのに大切なものって、一体何でしょうか。

・ストレッチは事故率が上がるから程々に。知識を更新してほしい。

・シティマラソン 10 キロの復活

・校庭での活動に制限をかけすぎない

・初心者も参加しやすいイベントを増やす

・(子供のその後の生涯に直結するため) 中学校でのスポーツに対しての教職員指導者の指導の仕方の見直し。いまだに昭和の時代のやり方・考え方の教職員の方が多すぎると思います。

・競ってたかめあう!もありかと。

・自由に参加できる環境と周囲の意識改革

・サッカー等のボールを扱える場所を増やす

・技術より、子どもの心を掴む、やる気にさせることが上手な指導者が必要。それさえあれば、子どもは自ら努力し勝手に上手になっていく。

・低価格なレッスンを参加定員無制限にして企画するべき。

・体質に個人差があるので個人にあった形で行えば良いと思います

・スポーツが苦手でも参加しやすい環境作り

・E スポーツという名称で、ゲーム対戦もスポーツのカテゴリーに入れてしまうと、健康で活かに満ちたスポーツ活動のイメージとは程遠い。E スポーツだけは呼び方を変えないと子どもたちに誤解しか与えない。

・小さいうちに様々なスポーツに触れられるようにする。

・公園、校庭でボール遊びはダメ、周りの方の迷惑になるからといったことや安全面等で私たちが子供の時よりも多くが制限されています。そういう社会によって、肥満児が増えていることも否定できないと思います。

・既に上尾市のイベントでありますが。スポーツに親しむ事を目的に、未就学児から高齢者まで気軽に体験できる環境作りのさらなる充実。

・義務教育内での栄養や身体構造についての学ぶ機会

・公園でサッカー練習すると文句ばかり言う人がいて、子供からスポーツの場所を奪うようなことをされて困っている。何のための公園かわからなくなる。

・全ての人がハンデや特性などを気にせず参加できること

・スポーツの教育者(体育の先生)や部活の指導者が昔同様熱血で罵声を浴びせるようなことが多く怖がっている生徒も多いと思います。スポーツを真剣にトップを目指したい生徒と楽しんでやりたい生徒の区別は必要なのではないかと思います。

・部活を維持

・学校内での部活動。目標があって協力があって達成感のあるチームワーク(生徒同士と教師と保護者)

・従来のような運動会やマラソン大会等、しっかりとスポーツ活動が出来るように元に戻す

・個に応じたスポーツ指導

・健康は大切だがスポーツをするから健康とは限らない

・競わせないスポーツ体験

③ その他

・スポーツ用品が高すぎます。子供がそれを気にしないと思っているとしたら、驚きです。まず、安く十分な資材が得られる事が一番重要です。それを気にしない子供は、自分の体験から驚きでしかないですが、スポーツ選手にかかる費用を考えれば、想像に難くないと思います。子供には驚くほどのポテンシャルがありますが、それを抑制するのは、いつも外的な思いやりです。

・怪我のケア、心のケア(精神的なサポート)

・学校で運動する機会が非常に減っている。ゲームで遊ぶ子が増えているため、外で遊ぶ楽しさを感じる機会を設ける

・民間委託

・時間、金銭にゆとりがあること

・スポーツは不要

・スクール等の紹介資料が目にとまりやすいとキッカケに繋がる

・上尾市中心部以外のサービスの充実